

甲南通信

KONAN MEDICAL CENTER

グランドオープン

【新病院記念号】

2022
April

No. 22

完成しました！
甲南医療センター





contents

プロローグ	1
甲南医療センターのあゆみ	3
理事長のごあいさつ [次の100年のタイムカプセル]	5~13

診療部 Medical Department

消化器疾患	
消化器内科	15
消化器外科	16
歯科口腔外科	17

循環器・呼吸器疾患	
循環器内科	18
呼吸器内科	19
呼吸器外科	20

腎臓・泌尿器疾患	
腎臓内科	21
泌尿器科	22

代謝・内分泌疾患	
糖尿病・内分泌・総合内科／糖尿病センター	23

皮膚・感覚器疾患	
耳鼻咽喉科	24
皮膚科	25
眼科	26

脳・神経疾患	
脳神経外科	27
脳神経内科	28

骨格・筋系疾患	
整形外科	29
形成外科	30

女性・こども・融合領域	
産婦人科	31
小児科	32
腫瘍・血液内科	33
緩和ケア内科	34
乳腺外科	35・36

特化・専門領域	
麻酔科	37
救急科	38
病理診断科	39
放射線科	40
PETセンター	41
IVRセンター	42
認知症疾患医療センター／精神科	43
血液浄化センター	44
創傷外科センター	45

看護部 Nursing Department

看護部	49
看護人事採用センター	50
看護職員研究センター	51

診療支援部 Medical Support Department

薬剤部	53
中央検査部	54
中央放射線部	55
中央臨床工学部	56
リハビリテーション部	57
栄養管理部	58
患者サポートセンター	59
医療情報部	60
病院秘書課	61
教育研修センター	62

甲南会・甲南病院から甲南医療センター へのあゆみ 1934～

新しい時代への跳躍
甲南病院から甲南医療センターへ

1934

甲南病院 開院

実業家で、後に文部大臣となる平生鈇三郎によって創設。「人類愛の精神に基づき、悩める病人のための病院たらん」を基本理念とする。



看護婦養成所開設

教養・学識・技術ともに高いレベルの『完全看護』を実現する為、10名の看護婦を選出。聖路加病院へ国内留学をさせ、アメリカ式完全看護を導入。

1945

第二次世界大戦の空襲により
外来診療所が焼失



1951

総合病院の名称許可

1948年(昭23)医療法施行により、甲南病院は『総合病院』として認可。同時にインターン病院として、医師の養成及び再教育を担うこととなった。

1955 甲南病院准看護師養成所発足

開院以来、看護婦の養成を行っていたが、戦争により中断
1955年(昭30)から再開し、准看護婦養成所を発足させた(2年課程)
1966年(昭41)に『准看護学院』と改称。

1982

南館 完成

人口の高齢化により、整形外科治療が必要な患者が多くなった。また、交通外傷も増加し、整形外科が新たに設置。1983年(昭58)、日本整形外科学会の修練施設に認定。



1984 開院50周年

50周年の記念式典と祝賀会を開催。56名の「永年勤続者」を表彰した。



2004 医師臨床研修病院に指定

2008 甲南病院看護専門学校を
甲南女子大学へ継承

2010 病院機能評価(Ver.6)受審

2012 電子カルテ導入
公益法人制度改革に伴い、『財団法人』
から『一般財団法人』に名称を変更

2013 新甲南病院建設事業
(konanビジョン2020)始動

2015 緩和ケア病棟 設置

2019 I期竣工、『甲南医療センター』に改称
(10月)



2019 甲南病院 から甲南医療センターへ
2022 グランドオープン
2022(461床)

2020 公益財団法人に認定、
地域医療支援病院に認可

新型コロナウイルス感染症のパンデミック
新型コロナウイルス感染症が世界中で大流行。重症例も多く、医療に大きな影響を及ぼし、2021年までに6波まで襲来した。

2021 大学・区役所・医師会とで結成された
ワクチンコンソーシアムで
新型コロナウイルスワクチンの
職域接種を実施



「東灘医療人材育成コンソーシアム」へ新たに東灘区医師会と東灘区歯科医師会が加入し、活動の幅が更に広がった。

2022 II期完工グランドオープン



＜法人のあゆみ＞ 1934 開院
＜暦 年＞ 1934
＜届出病床数＞ 1934(118床)

1970

甲南病院附属高等看護学院 開校

1975年(昭和50)に新たに専修学校の制度が新設されることになり、甲南病院付属高等看護学院から甲南病院看護専門学校と改称。

1972

西館増築

1979

神戸市二次救急病院に指定

1995

阪神・淡路大震災

甲南病院職員2名の尊い命が失われた。震災3日間で1,260人の外来、329人の入院患者を受け入れた。



1987 東館完成

1990

1987(400床)

1982 南館完成

1982(298床)

1972 西館増築

1972(277床)

2010

2015(380床)

2017

新甲南病院
建設工事着工



2018

東灘医療人材育成コンソーシアム設立

甲南大学、甲南女子大学、神戸薬科大学、東灘区役所と共同し、医療人材育成を目的とした「東灘医療人材育成コンソーシアム」を設立



グランドオープンのごあいさつ

公益財団法人 甲南会 理事長 具 英 成

【甲南病院から甲南医療センターへのあゆみ】

甲南病院は神戸市東灘区の中核病院として地域の皆様とともに歩んで参りました。1934年に竣工した病院は長い風雪に耐え、1995年1月には阪神大震災に直撃されても何とか持ちこたえ診療を続けました。周囲には樹齢200年に及ぶ楠や春には美しく咲き誇る桜並木があり、その佇まいは阪神モダニズムの代表的な建築として親しまれ、近畿建築家協会や市民の皆様から保存を囑望されたほどです。しかし、老朽化が激しく、再建するか、移転するかという思い切った決断が必要でした。私が赴任した2017年には建て替え工事が既に2015年12月から現地で着工されていました。当時、西側に広がる林の伐採が終わり、小川は掘削され丘陵には重機や工事車両が行き交う構台が設置されていました(写真1)。約3年半の工期を経て2019年8月には1期工事が終わり、10月から病院名を甲南医療センターに改称し380床で急性期医療に特化した新たな時代が始まりました。また、これを契機に六甲アイランド甲南病院では回復期やリハビリを強化し当院との機能分担を進めました。



(写真1) 建て替え工事初期：上空から見る旧甲南病院と西側南北に延びる仮設構台／2017年1月

【Ⅱ期工事竣工によるグランドオープンを迎えて】

全工程、足掛け6年に及びましたが、2022年2月27日にⅡ期工事が完工し記念式典を執行了いました。引き続き3月7日から新たに本館東棟の2病棟を加え419床となり、2023年中には最終461床となる予定です。幸いこれまで大きな事故もなく、難工事を完遂された工事関係者の皆様に改めて深甚なる感謝を申し上げます。記念式典には神戸大学の藤澤学長、眞庭病院長、植松東灘区長、堀本東灘区医師会長そして安井神戸市会議員から過分な祝辞をいただき、当院への期待の大きさに思いを新たにしました次第です。新病院は六甲の山並みと調和し、当院の歴史を彷彿させるレセプションや中庭に続く眺望など神戸市でも指折りの環境が整ったと誇らしく思うほどです。かつては工事現場を取り巻く覆いや目隠しで必ずしも工事の進捗はつぶさに追えませんでした。それでも期待に胸を膨らませ完成を待ちわびた歳月が思い起こされます。また、正面玄関には甲南病院から甲南医療センターへの時の流れをモチーフとしたモニュメントを設置いたしました。旧病院を彷彿させるデザインを配しましたので、来院の際は是非ご覧ください。

【病院への交通、周辺の整備】

通常診療を続けながらの建て替え工事でしたので、駐車場どころかタクシー乗り場すらままならず、皆様には長期に亘り多大なご不便をお掛けいたしました。現在は正面玄関でのタクシーや病院シャトルバスの乗降が可能になり、もうすぐ院内外で230台の駐車スペースが確保されます。また、鴨子ヶ原地域の交通安全のために病院北面の道路には神戸市と住吉学園のご支援で立派な歩道が整備される予定です。これにより病院周辺で地域の皆様がより安全に往来できる日が訪れるのを心待ちにしています。

【甲南医療センターのこれから：理念と行動指針について】

公益財団法人甲南会は3病院2施設を運営しています。その中核となる甲南医療センターについて簡単に紹介します。まず理念として、これからの100年を視野に公益と継続を大目標にかかげ、質の高い診療に邁進し、新しい歴史を刻んで参ります。第一歩として兵庫県の認可により、2020年4月に一般財団法人から公益財団法人へと法人組織を転換することができました。また2022年4月から新病院には神戸大学との連携で29の診療科が揃い、総勢158名(甲南会全体では183名)の医師が集い最高のチーム医療を追求します。今後は理念に掲げる公益と継続を旨とし、神戸大学医学部附属病院、神戸市立医療センター中央市民病院に次ぐ、神戸市第三の基幹病院として甲南医療センターの地歩を築いて参ります。次に行動指針について一言申し添えます。行動指針の第一項目の“心技一体で心の深くに届く高質の医療”を実践することを胸に、職員一人一人が医療人として常に慢心せず、たゆまず進化し、誇り高い職場を創ってまいります。皆様から「さすが!」と思われるような総合力のある職員を育成し、次世代に繋がる地道な医療を実践していくことを誓います。理念と行動指針については新病院の正面玄関に掲げましたので、ご覧いただければ嬉しく思います。

理 念

人の手で接する最善の医療を追求し実現します。
やがて創設100年を迎える基幹病院として**公益と継続**を重視し、
全職員にて新たな歴史を紡ぎ、**誇り高き病院**を創ります。

行 動 指 針

1. 心技一体で**心の深くに届く**高質の医療を実践します。
2. **不断の救急医療**を全職員で全うします。
3. 地域の医療機関、大学、行政との連携を強化し、**総合力のある人材**を育成し、絶えず**進化**する医療を構築します。
4. 最新機器を整備し、緑と静穏な療養環境のもと、**安心、安全なチーム医療**を実現します。
5. **患者・家族の尊厳を守り**、個人情報厳守します。



【おわりに】

東灘区は古くから神戸市を代表する文教地区で各界に多くの人材を送り出してきました。この地域には古い歴史をもつ大学もあり、多数の文化人、経済人を輩出しています。その伝統を活かし地域をどう繋ぐか、Digital Healthをどのように具現化するか、職員とともに各論を練り上げてまいります。昨年は地域の力で新型コロナワクチン接種を担う“東灘ワクチンコンソーシアム”ができました。医療人と大学、行政が手を携えて地域の総合力を高めて参りたいと思います。今後とも皆様のご支援をよろしくお願い申し上げます。

竣工式 【2022年2月17日】



【 次の100年のタイムカプセル 】



生田神社の巫女による神楽『豊栄舞』奉奏



玉串拝礼

グランドオープン式典 【2022年2月27日】



モニュメントの序幕とテープカット



環境と人に

2015年9月に準備工事が始まり、谷の造成や古い建物の解体、仮設橋梁の架設等、大規模で難易度の高い土木工事を行い、2017年3月にⅠ期工事に着手いたしました。2019年6月の第Ⅰ期工事竣工までの間、敷地内薬局の併設等、より良い病院を作り上げるべく邁進してまいりました。2020年8月の第Ⅱ期工事着工から竣工までに、第1駐車場拡張と先行使用等、幾つかのハードルを越えて2022年1月に新築がすべて無事完成いたしました。

患者様、病院スタッフ、そしてご利用される全ての関係者様のご理解、ご協力なくしては成し遂げることができませんでした。本当にありがとうございました。

現在、内部の改修工事を進めておりますが、病院ご利用者へのご負担、ご迷惑をおかけしないように細心の注意を払い作業を進めてまいります。あと、もう少しだけご理解とご協力をお願い申し上げます。



(株)竹中工務店 建替工事作業所 作業所長 佐藤 誠

優しい病院創り

「河川の上に病院を建設することは出来ません。」当時、敷地の中には渦が森・鴨子ヶ原の雨水を下流に流すための川が流れていました。500床規模の病院を建てるには、どうしても川を含めて敷地いっぱいを利用しないと計画できませんが、神戸市から法律上の難題を突きつけられました。そこで、敷地内で川を移設する案や、敷地北側の道路を利用して、川を西の新田川や東の天神川に振り替える案を検討しましたが、技術的に上手くいきません。挙句は、現地建替をあきらめ、別敷地での建替も検討しましたが、適当な条件の土地が医療圏内に見つかりません。計画が頓挫しかかった1年後、病院の熱意を汲み取ってくれた神戸市から、現状河川の位置で河川を暗渠化し地役権を設定して暗渠をまたいで病院を建設するという環境に配慮したアイデアを頂き、建替計画が現実のものとなりました。着工後は、診療報酬改定による医療行政の変化に追随すべく、診療機能の見直しに伴う、設計変更を繰り返しながら、5年の歳月を経て無事グランドオープンを迎える事ができました。その間、微力ながら建設関係者と病院・職員とのコーディネーターやコンダクターの役割を果たしてきましたが、常に「環境と人に優しい病院創り」を目指して推進してきました。企画から竣工まで10余年、建替プロジェクトに携われた事を関係者に感謝すると共に、皆様に長く愛され続ける病院になることを心から期待しています。



K20プロジェクト担当部長 大久保 進

甲南医療センター全容！

■ 本館：地下1階／地上7階

- 2階：手術室、ICU
- 3階：総合受付、患者サポートセンター、CT/MRI、IVRセンター、PETセンター、救急外来、カフェ、コンビニ
- 4階：外来、採血室、リハビリテーション室
内視鏡センター、化学療法室、生理検査室
- 5階～6階：病棟 ● 7階：産婦人科病棟、屋上庭園



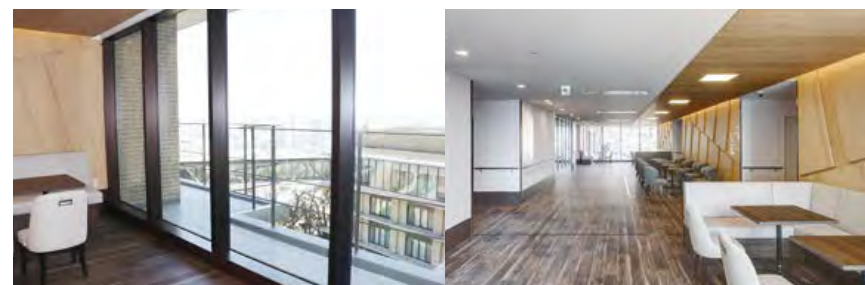
最新機器が導入された手術室



ゆったりとくつろげるカフェ



広々としたリハビリテーション室



眺望の開けた病棟デイルーム



山側

本館



モニュメント

正面玄関



屋上庭園



中庭



海側

本館

管理棟

南館

東館



■ 管理棟：地上5階

- 1階：医療情報部、診療情報管理室
- 2階：更衣室 ● 3階：事務部、医局、事務局（人事・経理）
- 4階：院長室、看護管理室、医療安全対策室、感染対策室
事務局（総務・企画・広報）、事務局長室
- 5階：医局

■ 東館：地下1階／地上3階

- 1階：緩和ケア病棟
- 2階：病棟
- 3階：小児病棟

落ち着いた色調の緩和ケア病棟



かわいいイラストでいっぱいの小児病棟

■ 南館：地下2階／地上3階

- 1階～2階：病棟
- 3階：血液浄化センター

木の香りが漂う血液浄化センター



ユニバーサルデザイン

[Universal Design]

～心の深くに届く温かい医療の実現に向けて～

「年齢や能力、状況などにかかわらず、できるだけ多くの人が使いやすいように、建物や環境をデザインする」というユニバーサルデザインの考え方のもと、甲南医療センターでは全ての患者さん、来院された方、スタッフにとって、安心安全で居心地の良い病院創りを施しています。

K20プロジェクト担当部長 大久保 進



ユニバーサルデザイン 7つの原則

- ① 公平性: 誰もが平等に利用できる
- ② 安全性: 危険がなく、安心して利用できる
- ③ 柔軟性: あらゆる人に応じた使い方が選択できる
- ④ 省体性: 無理な姿勢をとることなく、楽に利用できる
- ⑤ 単純性: 使い方が直感的に理解でき、簡単である
- ⑥ 空間性: 利用するのに適切な広さと幅がある
- ⑦ 明確性: 必要な情報が、容易に理解できる



1 公平性 誰もが平等に利用できる



階段やエレベーター、エスカレーターを設置することで、高齢の方や小さなお子さんを連れた方など全ての方がスムーズに移動できます。



小さいお子さまを連れた方が安心して誰でも利用できる授乳スペースやおむつ交換台を設置しました。

2 安全性 危険がなく、安心して利用できる



転倒事故を最小限に防ぐ為、浴室は滑りにくい素材を使用し、段差を無くしました。

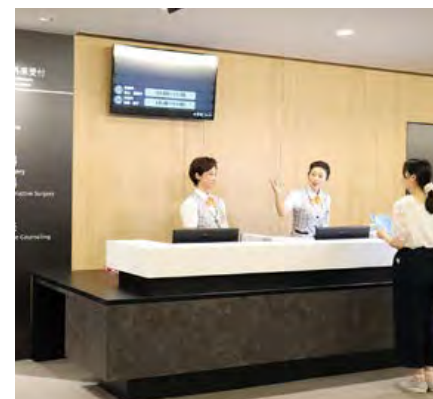


病室内のトイレは入口を斜めにする事で出入りがしやすくなっています。



病院内では、タイルカーペットで仕上げており、歩行時の足の負担を軽減します。

3 柔軟性 無理な姿勢をとることなく、楽に利用できる



様々な体勢(座位・立位)に対応できるように、カウンターの高さに変化を持たせました。



四肢が思うように動かせない方でも使いやすいよう、左右に手すりを設置また、スペースを広くしています。



外来待合では、体調に応じて休めるように、多様な形のソファを配置しています。

4 省体性 あらゆる人に応じた使い方が選択できる



病室の窓を大きくすることで明るくなり、ベッドからでも眺望を楽しめます。

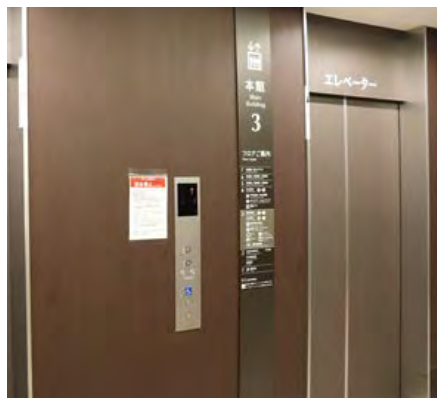


化学療法は、治療に長時間かかります。患者さんへの負担を考慮し、治療室では、温度ムラや風による冷えすぎ、乾燥、不快な風きり音が発生しない輻射空調を採用しました。



医療ガス・電気設備の配管・配線を組み込んだパネル収納ユニットを採用することでベッド周りがすっきりし、治療や移動がしやすくなりました。

5 単純性 使い方が直感的に理解できる



エレベーター扉に分かりやすく文字表示を施しました。



国際標準を基準に採用したシンプルなピクトグラム。一目で分かるようにしました。



見やすく分かりやすい総合案内板、行きたい場所がすぐに見つかります。

6 空間性 利用するのに適切な広さと幅がある



明るくゆったりとした総合待合。



居心地の良い場所を選択できる多様な外来待合。



長時間かかる透析治療が少しでも癒されるように杉の木を多く使用し、香りが漂うにしました。また、大きな窓によって解放感を出す創りにしました。

7 明確性 必要な情報が、容易に理解できる



外来では、離れた所からでも見やすいように天井吊りの電照誘導サインを採用しました。



突き出しサインにすることで一目で分かりやすくなっています。



来院された様々な方がすぐに分かるように院内案内は日本語・英語併記サインにしました。

診療部

Medical Department

<消化器疾患>

- ◆消化器内科 15
- ◆消化器外科 16
- ◆歯科口腔外科 17

<循環器・呼吸器疾患>

- ◆循環器内科 18
- ◆呼吸器内科 19
- ◆呼吸器外科 20

<腎臓・泌尿器疾患>

- ◆腎臓内科 21
- ◆泌尿器科 22

<代謝・内分泌疾患>

- ◆糖尿病・内分泌・総合内科／ 23
- 糖尿病センター

<皮膚・感覚器疾患>

- ◆耳鼻咽喉科 24
- ◆皮膚科 25
- ◆眼科 26

<脳・神経疾患>

- ◆脳神経外科 27
- ◆脳神経内科 28

<骨格・筋系疾患>

- ◆整形外科 29
- ◆形成外科 30

<女性・こども・融合領域>

- ◆産婦人科 31
- ◆小児科 32
- ◆腫瘍・血液内科 33
- ◆緩和ケア内科 34
- ◆乳腺外科 35・36

<特化・専門領域>

- ◆麻酔科 37
- ◆救急科 38
- ◆病理診断科 39
- ◆放射線科 40
- ◆PETセンター 41
- ◆IVRセンター 42
- ◆認知症疾患医療センター／ 43
- 精神科
- ◆血液浄化センター 44
- ◆創傷外科センター 45

消化器内科

最新の内視鏡診断・治療に習熟した
各消化器官の専門医が対応

●西岡 千晴 統轄部長 ●河原 史明 部長
山中 広大* / 賀来 英俊 / 金子 三紀 / 原 和也 / 松井 恒樹
田中 彩香 / 増田 祥子 / 坂根 達哉 / 新丸 尚輝 / 高島 晨伍 (*=医長) 全12名

>『新しい展開は?』What's New!

①各領域の専門性アップ

消化器系は消化管、胆膵、肝臓と多くの臓器(領域)から構成されており、医療の進歩とともにそれぞれの領域で高度な専門性が要求されるようになっていきます。特に、高度な内視鏡治療手技の習得には多くの経験が必要です。各領域を専門とする経験豊富なスタッフが協力して診療を行っています。

②24時間365日オンコール体制

地域に貢献するために院長が掲げた「断らない救急」のスローガンに則り、急な腹痛や吐血など時間外の消化器疾患にも対応できるよう24時間365日オンコール体制を敷いています。消化器内科以外の医師が当直の時でも、当科の診療・処置が必要な場合は連絡を受けて駆けつけます!

③チーム主治医制

入院中は一人の患者さんに対し複数の医師がチームで担当します。チームで担当することにより、日々刻々と変わる患者さんの病状に素早く対応できるような体制をとっています。

>『得意領域の深化は? (診療または業務内容とスタッフについて)』What's Strengthen!

①早期がんの内視鏡治療

早期がんは低侵襲な内視鏡治療で完治できる可能性があり、高齢の患者さんやリスクの高い患者さんだけでなく、すべての患者さんにとって望ましいことです。当科では最新の内視鏡で画像強調拡大観察を用いて早期がんの発見に努め、内視鏡的粘膜下層剥離術(ESD)を積極的にを行っています。

②胆膵系内視鏡検査・治療

総胆管結石性胆管炎は緊急性が高い疾患のため、上述のオンコール体制で即時対応しています。内視鏡的逆行性胆膵管造影(ERCP)によるドレナージを行い、抗生剤投与で胆管炎を落ち着けてから採石治療を行っています。また、膵臓がんは診断が難しいといわれますが、超音波内視鏡(EUS)ならびに穿刺吸引細胞診(EUS-FNA)を積極的に行い、診断して治療に繋げています。

>『将来構想は?』What's Future Challenges!

スタッフを増員、層を厚くして様々な疾患・病態に常に対応できる体制を整えていきたいです。大学や連携施設とも人や技術の交流をし、さらにレベルアップを目指します。当院で研修した専攻医が大学や連携施設でさらに研

ます。また、当科では毎日モーニングカンファレンスを行い、主治医チーム以外の医師も含めた全員で患者さんの治療方針について議論し最善の治療法を検討しています。

④新しくなった内視鏡センター

内視鏡検査スペースが新しく、広くて機能的になりました。検査室が増え、リカバリースペースも拡充しましたので、鎮静剤を少量使用し、苦痛の少ない内視鏡検査後は、しばらく休んでからお帰りいただきます。旧甲南病院や六甲アイランド甲南病院の内視鏡室をご存じの患者さんには広くてきれいになったね、とわれています。

2019年秋に新装オープン後、まもなくして2019年12月から全世界に広がったコロナ禍の感染対策にも、素早く対応しました。内視鏡室に換気装置を導入、PPE(個人用防護具:手袋、マスク、アイガード、ガウン、エプロンなど)を着用して、感染に留意し内視鏡検査を行っています。内視鏡受検者の方にも事前の健康チェックと検温のご協力をお願いしています。

③緩和的治療としての内視鏡手技

進行がんによる消化管閉塞症状の解除や黄疸の改善を目的としたステント留置術など、病状に応じた緩和処置を行っています。

④消化管機能性疾患の診断治療

アカラシア(食道運動異常)はつかえ感、嘔吐、胸痛などの症状を来す疾患で、10万人に約1人とまれな疾患のため長期間診断されず苦しんでいる患者さんがいらっしゃいます。当科ではアカラシアの内視鏡治療の経験を積んだ医師が、甲南医療センターになった2019秋以降の2年間で12例を治療し良好な治療成績をおさめています。

以上は当科で施行している検査・治療の一部です。詳細は病院ホームページに掲載しておりますので是非ご覧ください。

鑽を積み、将来また当院の中核を担ってくれることを期待しています。コメディカルの内視鏡技士資格取得者も増やしていきたいと考えています。

消化器外科

低侵襲手術から高難度手術まで
状態に合わせた最善の外科治療を実現

●具 英成 理事長・院長 ●塚本 好彦 統轄部長
●千堂 宏義 診療部長 ●藤田 敏忠 部長
瀧口 豪介* / 音羽 泰則* / 小倉 佑太*
川島 龍樹 / 今井 理揮 (*=医長) 全9名

>『新しい展開は?』What's New!

消化器外科手術は外科医一人で行えるものではなく、さながら「ドクターX」のごとく数名の消化器外科医と麻酔科医、手術看護師、手術スタッフの協力のもとで成り立っています。甲南医療センターとなって麻酔科、消化器外科、その他外科系診療科や手術室が拡充されました。手術枠が増え、手術待ちが軽減され、緊急手術はいつで

>『得意領域の深化は? (診療または業務内容とスタッフについて)』What's Strengthen!

時に、外科の先生は「厳しい先生が多い」、「怖い先生の印象がある」といった噂を耳にすることがあります。幸い、甲南医療センターの消化器外科には仏さんのような優しく心の広い医者が集まっています。どのようなことでも気軽にご相談ができると思います。昨今、超高齢者の手術が増えております。我々消化器外科医がチームー

>『将来構想は?』What's Future Challenges!

近年、内視鏡手術が普及し、ロボット支援手術も急速に進んでいます。もうすでに一部の消化管手術においてロボット支援手術の保険適用となっていますが、有用性・安全性が確認されればその他領域の手術にも保険適用が拡大される方向で検討されています。内視鏡手術は医師の手で手術を行い、ロボット手術は医師がロボットを使って手術を行います。ロボット支援手術にはメリットのみならずデメリットもありますが、今後はロボット手術が主流になると予想されています。甲南医療センターでも将来、ロボット支援手術の導入を見据えつつ、さらなる技術の向上のため我々消化器外科医はこれからも研鑽に努めてまいります。

歯科口腔外科

周術期口腔機能管理に尽力し、
炎症性疾患や口腔外科疾患に対応

●古土井 春吾 診療部長
伊賀 利香/西川 華子 全3名



>『新しい展開は?』What's New!

当院の歯科口腔外科は、2019年10月の甲南医療センターのオープンにあわせて新設されました。口腔外科医2名、歯科衛生士2名、診療台3台の診療体制でスタートし、近隣の歯科医院や医療機関および院内の他診療科と密接に連携しながら口腔外科疾患の治療に取り組ん

できました。おかげ様で多くのご紹介をいただき、当科を受診される患者さんが増加したことで、2021年には常勤医が1名増員されて口腔外科医3名体制となり、診療台も4台に増設されました。さらに、グランドオープンにあわせて2022年4月から歯科衛生士が1名増員されます。より充実した診療体制のもと、これまで以上に地域医療に貢献できるよう尽力していきたいと思ひます。

>『得意領域の深化は? (診療または業務内容とスタッフについて)』What's Strengthen!

当科では、患者さんがストレスなく安心して抜歯できる体制を整えています。親知らずが深い位置に埋まっている場合や抜歯に対する恐怖心の強い患者さんに対し、入院(2泊3日)のうえ全身麻酔下での抜歯(眠っている間に抜歯が終了)を行っています。2021年の症例数は167件と当科の入院症例の半数以上を占めており、得意領域となっています。また、抗血栓薬(抗凝固薬や抗血小板薬)を内服されている患者さんは、抜歯後の出血が止まりにくいリスクがありますので、抜歯した日に1泊していただいて翌日に退院する1泊2日の入院下の抜歯も行っています。



入院されているので、抜歯部位から夜間に出血しても迅速に対応することができます。

>『将来構想は?』What's Future Challenges!

東神戸エリアには歯科口腔外科のある病院が少ないので、口腔外科疾患全般に対して質の高い医療を提供できるよう研鑽を積み、地域に必要な歯科口腔外科となるよう努力したいと思ひます。また、チーム医療を担う一員として院内の他診療科との連携を深め、手術前後

の患者様、人工呼吸器が装着されている患者さん、抗がん剤を投与されている患者さんなどに対して積極的に介入し、口の中をきれいにして食べる機能を回復することで、治療成績の向上に貢献できるよう努めていく所存です。これからもよろしくお願いいたします。

循環器内科

神戸市東部地域の循環器内科診療の
要として多様な診療を実践

●清水 宏紀 参事 ●大久保 英明 診療部長
●下川 泰史 部長
兵庫 聖大*/宇津 賢三*/長澤 圭典*
福山 裕介*/坪井 孝文/長野 知之
藤本 圭祐/中野 貴仁
井上 はるな/衛藤 弘章
(* = 医長)



>『新しい展開は?』What's New!

循環器科は六甲アイランド甲南病院時代より365日24時間循環器疾患の受け入れを行ってきました。甲南医療センター開院後、更に救急体制を強化し断らない救急の実践を行っています。循環器疾患は虚血性心疾患、弁膜症、不整脈、末梢動脈疾患、心不全などがありますが緊

急を要する疾患が多く迅速な対応が不可欠です。クリニック、近隣の病院とは循環器疾患のホットラインを設けスムーズな受け入れを行っています。救急隊とは密接な協力体制を取っています。

>『得意領域の深化は? (診療または業務内容とスタッフについて)』What's Strengthen!

循環器科にはカテーテル治療、不整脈などの専門医が多数在籍しておりすべての循環器疾患に対応しています。虚血性心疾患に対しては従来のステント治療だけでなくロータブレーター、DCB(Drug-coated Balloon)による治療を行っています。また重症大動脈弁狭窄症に対してはバルーンによる治療(BAV)も行っています。心房細動、心房粗動、発作性上室性頻拍症など頻脈性不整脈に対しては積極的にカテーテルアブレーション(ABL)を行っています。

	2020年	2021年
PCI	169例	227例
EVT	41例	62例
ABL	35例	62例
BAV	—	8例
ペースメーカー植え込み(交換を含む)	59例	61例

>『将来構想は?』What's Future Challenges!

当院は神戸市東部地域に位置し約30万人の市民の医療を担っています。循環器疾患の中核病院を目指してい



ます。今後、高齢者の増加に伴い循環器疾患が増えることが予想されます。循環器科のスタッフは全員病院の近くに住み緊急コールで30分以内に集合する体制にしています。特に急性心筋梗塞は一刻を争う心疾患であり来院から血管の開通までの時間(Door to Balloon)は90分以内を目指しています。今後、さらに市民、診療所、救急隊員の信頼を得るためスタッフを充実させ先進医療に取り組んでいきたいと考えています。

呼吸器内科

東神戸地区における呼吸器疾患の
専門医を擁する総合病院として
先進の治療を実践

●中田 恭介 部長
寺下 智美*
吉崎 飛鳥*
(*=医長)

全3名



>『新しい展開は?』What's New!

呼吸器内科は2020年4月に開設し、呼吸器専門医2名で診療を開始しました。神戸大学呼吸器内科の関連病院では、兵庫県内で最も東に位置する病院です。長らく呼吸器内科の専門医を擁する総合病院がなかったエリアであり、神戸市東灘区周辺地域の患者さんや、地域医

療を行っておられる先生方のご要望に応じていけるように取り組んでいます。今回の増床に伴い、より多くの方の診療にあたっていければと考えています。
息苦しさ、咳、たんなどでお困りの症状に対して、患者様それぞれに最適と思われる診療を目指しています。

>『得意領域の深化は? (診療または業務内容とスタッフについて)』What's Strengthen!



呼吸器内科では肺炎や結核・非結核性抗酸菌症などの呼吸器感染症、肺がん、間質性肺炎、気管支喘息や慢性閉塞性肺疾患(COPD)など幅広く診療を行っております。2022年4月からは新メンバーも迎え、常勤の呼吸器専門医3名となります。また神戸大学呼吸器内科からの応援医師の協力も得て、より充実した診療体制と検査体制を整えております。呼吸器外科や放射線科との連携もできており、様々な診断・治療の選択肢をご提供できるものと考えています。

>『将来構想は?』What's Future Challenges!

専門医による診療だけでなく、若手医師の育成にも力を入れていきたいと考えています。若手医師の指導を通して、指導医も常に最新の医療情報をアップデートしていくことを目指しています。

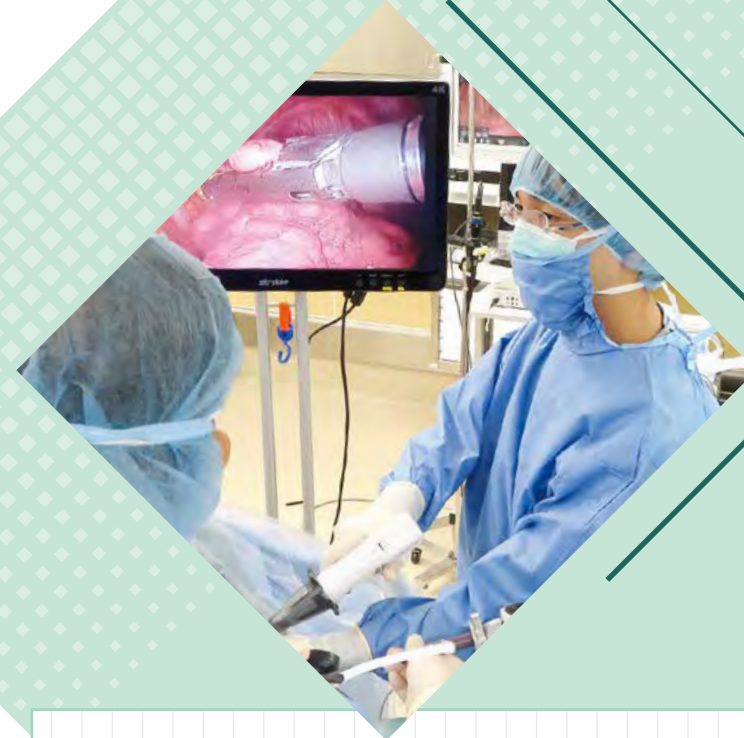


呼吸器外科

胸部領域における様々な
疾患に対応

久野 真人 医長
宇野 友規

全2名



>『新しい展開は?』What's New!

甲南医療センター改称と同時に発足した呼吸器外科ですが、徐々に手術件数も増え、漸く安定軌道に乗って参りました。4月からは専攻医を加えた2名体制への人員拡充を予定しており、更なる飛躍を迎えたいと考えてお

ります。呼吸器内科、救急科とも連携を強め、より質の高い医療を提供できるよう精進して参ります。

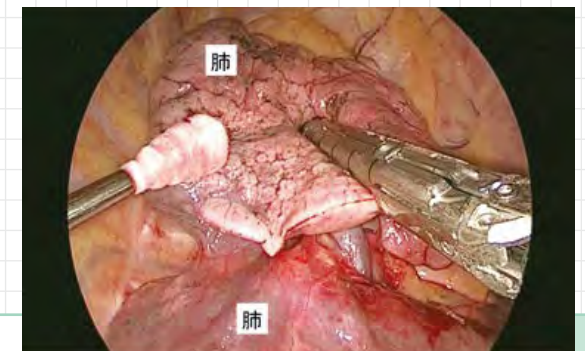
>『得意領域の深化は? (診療または業務内容とスタッフについて)』What's Strengthen!

スタッフ増員に伴い、肺癌と並ぶ当科の主要治療項目である気胸や膿胸などの準緊急手術をよりスムーズに行

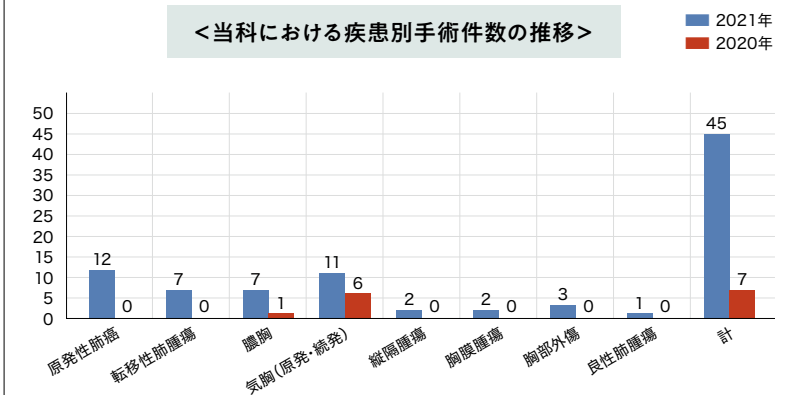
うことが可能になると考えております。

>『将来構想は?』What's Future Challenges!

灘区、東灘区から、芦屋市、西宮市含め、地域の呼吸器診療の基幹を担うべく、邁進しております。



<当科における疾患別手術件数の推移>



腎臓内科

蛋白尿から維持透析まで
一貫した腎臓病治療を提供

●藤森 明 副院長 ●岡田 志緒子 部長
才田 宏奈/藤川 亜里紗/小島 克仁/田中 志歩

全6名



>『新しい展開は?』What's New!

当科では蛋白尿から維持透析までの一貫した腎臓病診療をおこなうことをモットーとして活動してまいりました。甲南医療センターとなってからは人員も増え、より多くの腎臓病患者さんの診療に携わるようになっていきます。具体的に腎生検症例は2020年の19例から2021年は30例に増加、透析導入症例は30例から45例に増加しております。これは、東灘区・灘区を中心とした診療所の先生方との連携を強固にすることで、多くの患者さん

>『得意領域の深化は? (診療または業務内容とスタッフについて)』What's Strengthen!

血液透析のためのバスキュラーアクセスの作成、管理もおこなっています。透析患者さんはシャントの血管が細くなって透析効率が下がってしまうといったトラブルがしばしば起こります。このようなトラブルに対しては以前からバルンカテーテルによる血管拡張術(PTA)をおこなってきました。当院での導入症例が増加し、維持

を紹介いただけるようになったことによるものと思われます。グランドオープンにあたり、甲南医療センター腎臓内科の存在をより多くの先生・患者様に知っていただき、より多くの患者さんのお役に立ちたいと考えています。

透析を近隣の施設にお願いすることが増えております。このためPTAの対象も六甲アイランド甲南病院の透析患者さんや、近隣の透析施設の患者さんに対象を広げております。今後もIVRセンターと協力しながら、PTAの症例を増やしていきたいと考えています。

>『将来構想は?』What's Future Challenges!

蛋白尿から維持透析までの一貫した腎臓病診療を継続するには、患者さんにも腎臓病を知っていただき、病気と上手に付き合っていくことを知っていただくことが重要です。グランドオープン後は内科系病棟が6階に集

まり、糖尿病・心不全・慢性腎臓病といった連携する疾患の患者教育施行がしやすくなりますので、教育入院をさらに充実する体制を構築していきたいと考えております。

泌尿器科

東灘区唯一の
入院治療可能施設として
積極的に腹腔鏡手術を実施

●田中 浩之 診療部長
今井 聡士* (*=医長)

全2名



>『新しい展開は?』What's New!

現在の甲南医療センター泌尿器科は2017年4月に六甲アイランド甲南病院へ田中が診療部長として赴任した事から始まります。2019年10月から甲南医療センターへ田中が移り、桃園が医長として赴任し2人体制となりました。この時期に体外衝撃波結石破碎装置(ESWL)とホルミウムレーザー、軟性尿管鏡を導入し、積極的な結

石治療を開始しました。現在は2021年4月に桃園と交代で赴任した今井医長と田中の2人体制で診療を行っています。当院は東灘区では唯一の泌尿器科で入院治療を行える施設です。外来・入院患者数と手術件数は年々増加しています。

>『得意領域の深化は? (診療または業務内容とスタッフについて)』What's Strengthen!

今井は尿路結石治療のスペシャリストとして、最新の内視鏡とレーザーを使用して安全で確実な経尿道的結石治療(TUL)を積極的に行っています。今井、田中ともに腹腔鏡手術の技術認定医で腎尿管悪性腫瘍の手術や副腎腫瘍の手術を、立体視ができる3D腹腔鏡を使用して安全に行います。

膀胱がんの経尿道的(内視鏡)手術も経験豊富な2名の泌尿器科専門医が行う事により、再発や合併症の少ない手術が可能です。前立腺肥大症に対しては、バイポーラ電気メスを使用した先進的な経尿道的前立腺核

出術(TUEB)を選択し、大きな前立腺でも安定した手術を行っています。



>『将来構想は?』What's Future Challenges!

近年泌尿器科では主な開腹および腹腔鏡手術は手術支援ロボットを使用して腹腔鏡下で行われています。当院では未だ手術支援ロボットが導入されていないため、前立腺癌などで手術が必要な患者さんは神戸大学附属病院や神鋼記念病院などの関連病院へ紹介しています。

ただ、テクノロジーの急速な進化により、自動運転やAIの技術が手術支援ロボットに応用され、現在のロボットが近い将来に時代遅れの機器となる可能性が高いと予想されます。進化した次世代ロボットが登場したときに、速やかに導入することが肝要と考えています。

糖尿病・内分泌・総合内科／ 糖尿病センター

チーム医療によるきめ細やかな対応を実施
糖尿病診療の質の向上にもまい進

- 山田 浩幸 院長代行 ●福永 馨 診療部長
- 肥後 里実 部長
- 浜口 哲矢* / 金谷 雅之
- 友藤 清爾 / 黒川 和磨
- (*=医長)

全7名



>『新しい展開は?』What's New!

糖尿病患者さんは現在も増え続けていますが、その検査・治療に関しては着実に進歩を遂げてきています。次々と新たな薬剤が登場し、テクノロジーを駆使した新たな機器によって糖尿病診療が変わろうとしています。持続血糖モニターCGM/FGM、持続皮下インスリン注入CSII、その利点を合わせたSAP治療等、これらの機器を

使用することにより、患者さんの状態を詳細に解析し適切に対応することができるようになってきました。当科を受診された患者さんに対して、最新の情報を提供し、適切に対応することによって、今まで以上に細かく病態把握を行い、その患者さんに合った治療法の選択を行えるように努めています。

>『得意領域の深化は? (診療または業務内容とスタッフについて)』What's Strengthen!

当院では糖尿病センターとして、腎臓内科、循環器内科、眼科、脳神経外科、整形外科、形成外科等の糖尿病に関連する多くの診療科と連携をとることにより、糖尿病合併症に対してもきめ細やかな対応に取り組むことが可能になっています。また3名の日本糖尿病学会専門医・指導医に加えて、看護師、薬剤師、栄養士、理学療法士、公認心理師を始めとする医療スタッフによるチーム医療によって糖尿病診療の質を上げるよう努力しています。入院期間中でのスタッフからの教育指導や、外来での糖

尿病療養指導、栄養指導、薬剤指導、フットケア指導等で効果を上げています。



>『将来構想は?』What's Future Challenges!



甲南医療センターの体制がスタートして間もなくコロ

ナ禍に見舞われました。今後は、今まで以上に地域のネットワークづくりに取り組んでいきたいと思っています。地域のクリニックの先生方との病診連携や、糖尿病教室や外来指導等を通して外来患者さんとスタッフ、あるいは患者さん同士の交流を高めていきたいと思っています。一方で若手医師の研修教育にもさらに力を入れて、当院での糖尿病診療や急性期医療のレベルアップにも繋げていきたいと思っています。

耳鼻咽喉科

小児から高齢者に至る様々な耳鼻科疾患に対し、
細やかで丁寧な診療を実施

●後藤 友佳子 部長

小池 雪絵* / 橋本 裕依子 (*=医長)

全3名



>『新しい展開は?』What's New!

鼓膜の穴(鼓膜穿孔)に対して、最近開発され保険適応となった医療材料「リティンパ」があります。鼓膜を再生させる薬をゼラチンスポンジにしみこませ、穿孔にあてます。当科では学会などで他施設の報告を参考に様子をみておりました。治療成績が良いようですので、2021年11月から使用を開始しております。穿孔で少し聞こえ

にくい方、耳漏(じろう:耳だれ)が起こる方、これまでの手術で穿孔が治らなかった方などにお勧めです。片耳につき合計4回まで施術可能です。局所麻酔で施行可能ですので、日帰りで手術を受けていただけます。詳しくは当院ホームページ(#365REAL)もご覧いただき、是非、当科外来でご相談ください。

>『得意領域の深化は? (診療または業務内容とスタッフについて)』What's Strengthen!

慢性副鼻腔炎、アレルギー性鼻炎、鼻副鼻腔腫瘍などの鼻内疾患に対する手術は内視鏡下で行われます。以前に比べてよりきれいな画像を見ながら細かい手術操作が可能です。ただし、鼻副鼻腔の隣には脳や目といった重要な臓器があり、当然損傷することは避けなければなりません。当科では事前に撮影したCT画像とリアルタイ

ムの手術操作部位を照らし合わせ、正確な位置確認ができるナビゲーション機器を導入しています。これにより、一層安全な手術を行えるようになりました。全身麻酔で最短4日間の入院期間を設けています。鼻づまりや後鼻漏、嗅覚低下などでお困りの方はまず手術が必要かどうか確認します。ぜひご相談ください。

>『将来構想は?』What's Future Challenges!

耳鼻咽喉科の疾患は多岐にわたります。小児は滲出性中耳炎、真珠腫性中耳炎、扁桃肥大、乳幼児の難聴など、成人は慢性扁桃炎、真珠腫性中耳炎、慢性副鼻腔炎、声帯腫瘍、急性炎症性疾患、顔面神経麻痺、突発性難聴などを中心に、地域の耳鼻咽喉科医院と連携をとりながら診療しております。今後は高齢社会にむけて眼科と合同で慢性涙囊炎による涙目などでお困りの方に鼻腔涙囊吻合術を計画しています。当科は医師をはじめ聴覚専門の言語聴覚士など女性スタッフが多く、0歳から100歳以上の老若男女、お子さんや働く保護者への配慮を含め、気配り上

手で丁寧な医療を目指してまいります。今後ともよろしくお願いたします。



皮膚科

慢性皮膚疾患からの解放を第一に
ひとりひとりに合わせた投薬、
入院治療を提供

●吉岡 晶子 部長
高山 恵律子*(*=医長)

全2名



>『新しい展開は?』What's New!

甲南医療センター皮膚科では、乾癬、アトピー性皮膚炎の注射治療薬である生物学的製剤が使用できます。生物学的製剤は体の免疫機構などに関わる物質であるサイトカインの中で、乾癬、アトピー性皮膚炎でそれぞれ深く関わっているIL(インターロイキン)の働きを抑えることで症状を改善させる薬剤です。これまでの治療(外



用剤や内服薬、紫外線治療など)では十分な効果が得られなかった方が対象となります。残念ながらすべての患者さんが使用できるわけではありませんが、生物学的製剤による治療についてお知りになりたい方、乾癬、アトピー性皮膚炎でお困りの方は当院にご相談ください。

>『得意領域の深化は? (診療または業務内容とスタッフについて)』What's Strengthen!

皮膚の感染症、带状疱疹(ヘルペス)などの患者さんをはじめ入院加療も積極的に行っております。皮膚腫瘍の手術や、薬疹、接触皮膚炎などのアレルギー疾患に対するパッチテスト、皮膚テスト等のアレルギー検査も行っております。乾癬や掌蹠膿疱症(しょうせきのうほうしょう)等に対する光線療法、陥入爪治療などにも対応しております。蕁麻疹、にきび(ざ瘡)、脱毛症などの皮膚症状でお困りの方も当科にご相談ください。

皮膚科の疾患は経過が長い慢性疾患も珍しくありません。患者さんに適切な治療を受けていただけるように丁寧な診察、分かりやすい説明を心掛けております。



>『将来構想は?』What's Future Challenges!

東灘区の基幹病院の皮膚科として、患者さんのご要望にお応えできるよう日々、努めてまいります。院内では他科との連携を密にし、これまで以上に診療科をこえて患

者さんが満足していただけるようにしていく所存です。地域の先生方からも甲南医療センター皮膚科へのご相談、ご紹介をよろしくお願い申し上げます。

眼科

神戸市東部地域の眼科中核病院
としてデジタル化を進め、
ライフスタイルに合わせた
治療を提供

●石橋 一樹 診療部長
宇津 永遠*/中村 賢和*/佐々木 信之/澤見 香菜(*=医長)

全5名



>『新しい展開は?』What's New!

甲南医療センターの第2期工事の完成にともなって中央手術室が増室されます。これにより平日の週5日間、眼科手術が可能になります。これまで近隣の眼科クリニックの先生方との連携をおこない、緊急性のある眼疾

患に対しては当日の緊急手術をおこなってきましたが今後これまでにスムーズな緊急対応が可能になり、神戸市東部の眼科中核医療施設としての任に当たることができると考えています。

>『得意領域の深化は? (診療または業務内容とスタッフについて)』What's Strengthen!

甲南医療センターの眼科は年間約1000件の白内障手術をおこなっています。近年、様々な付加価値をもった眼内レンズが使用可能になっています。一般的な眼内レンズは遠方に焦点をあわせたときには手元は近用眼鏡の使用が必要になります。保険適応外の多焦点眼内レンズほどでは

ないのですが老眼症状が軽減される眼内レンズも保険適応になってきました。当院でも使用された患者さんより近用眼鏡の使用頻度がさがったとの喜びのお声をいただいています。手術前に患者さんの生活スタイルを確認してメリットのある眼内レンズをお勧めしていきたいと考えています。

>『将来構想は?』What's Future Challenges!

眼科手術分野でのデジタル機器の進歩は日々めざましいものがあります。手術中に網膜の断層イメージが撮影で



きる網膜断層撮影装置は黄斑部の繊細な手術手技に有用になる可能性があります。また、術野をモニターに映しながら手術をおこなう映像システムを使用するとより低光量で「まぶしくない」手術が可能になります。いずれの機器もまだ当センターには設置されてはいませんが患者さんの明らかなメリットが実証されればこれらの手術機器の導入を検討していきたいと考えています。

脳神経外科

脳血管内治療専門医により急性期から慢性期まで一貫した精度の高い治療を提供

●本岡 康彦 診療部長
田中 潤* / 勝部 毅 (*=医長) 全3名



>『新しい展開は?』What's New!

東灘区において1992年に開業された六甲アイランド甲南病院脳神経外科は地域医療に重点を置いて、住民の皆様の『脳の健康』を守るべく発展してきました。2019年10月の甲南医療センターのオープンに伴い、移転統合する形で脳神経外科は新設されました。新設時から3名の脳神経外科専門医で主に脳血管障害(脳卒中)、脳腫瘍お

>『得意領域の深化は? (診療または業務内容とスタッフについて)』What's Strengthen!

当科では脳卒中の外科技術指導医と脳血管内治療指導医を揃え、より安全かつ有効な治療を選択できるように多角的な視点から診断を行なっています。実際の診療において、各3名の脳外科医と神経内科医の計6名が連携して、昼夜を問わず対応し、当院の『断らない救急』診療に準拠した脳卒中診療体制を行っています。

また、脳腫瘍や頭部外傷に対しても、周術期にICUに

>『将来構想は?』What's Future Challenges!

今後の展望として、神経内視鏡や術中超音波検査および手術ナビゲーションなどのマルチモダリティを駆使して、より侵襲性の低い開頭術を実践していく予定です。また、脳血管障害の分野においては、脳血管内治療の進歩により、これまで治療が困難であった部位に生じた脳動脈瘤に対してステント援助下でのコイル塞栓術や血流改変ステントを用いたコイルレスの脳動脈瘤治療といった

よび頭部外傷において超急性期から慢性期までの治療を地域で完結する脳外科医療に取り組んで参りました。

とくに脳血管障害は刻々と症状が悪化し、発症から治療終了までの時間が予後に大きく影響します。そのため、脳神経外科専用の手術室と脳血管内治療室を常時完備し、迅速な治療に対応しています。

において専任のスタッフとともに、神経集中モニタリングでリアルタイムに病状を把握し、病状の変化に即座に対応できるシステムを構築しています。当科では脳卒中の外科技術指導医と脳血管内治療指導医を揃え、より安全かつ有効な治療を選択できるように多角的な視点から診断を行なっています。

従来の治療法より低侵襲かつ有効性の高い治療を展開していく予定です。

これまでと同様に敷居が低く受診しやすい脳神経外科でありながら、最先端の高度医療を提供していきます。また、患者さんやご家族に丁寧に病状を説明し、理解を深めて頂きながら治療を受けていただけるような『よくわかるやさしい脳神経外科』を引き続き目指して参ります。

脳神経内科

専門医が神経や筋肉からつくる様々な疾患や痛みに対し、患者様それぞれに合わせた治療を提供

●小別所 博 診療部長 ●鎌田 寛 部長 中野 孝宏/牧野 愛

全4名



>『新しい展開は?』What's New!

甲南医療センター自体が東灘の地域に根ざした救急医療に力を入れており、それとともに脳神経内科も脳卒中や神経救急に診療の重点を移しているところです。フットワークの軽い脳神経内科を目指しています。また医師の働き方改革が叫ばれており、スタッフの増

員にともない脳神経内科では主治医制からチーム制への移行、その結果として医師ひとりひとりの負担の軽減を目指しています。そのため毎日朝夕にカンファレンスを行い、全入院患者さんを全スタッフで把握し、質の高い医療の維持につとめています。

>『得意領域の深化は? (診療または業務内容とスタッフについて)』What's Strengthen!

上記のとおり脳卒中診療に力を入れており、脳神経外科とタッグを組んで質の高い診療を行うことを目指しています。そのために2021年4月より脳神経外科と週1回合同カンファレンスを開催し、症例や最新の治療法・ガイドラインの共有を行い、診療科に関わらず標準的な治療を患者さんに提供できる体制を構築しています。このカンファレンスには病棟看護師およびMSWも参加し、また別にリハビリカンファレンスも行い、リハビリテーション科も含め、多職種による円滑なチーム医療を行うようにしています。また2022年1月からは毎週火・木・

金曜日の夜間に脳神経内科もしくは脳神経外科医が必ず当直を行い、断らない脳卒中診療を目指しています。



>『将来構想は?』What's Future Challenges!

今後スタッフが増えれば、脳卒中当直を行う曜日を増やし、最終的には365日24時間対応できるようになればいいなと考えています。神戸大学の人事で2022年4月よ



り後期研修医がひとり新しく加わる予定です。また脳卒中や神経救急に加えて、パーキンソン病などの神経変性疾患の診療についても、近隣のクリニックの先生方、コメディカルと力を合わせて円滑なチーム医療を行っていったらと考えています。さらに、当院は多数の初期・後期研修医が研修している病院であり、初期・後期研修医の教育にも力を注ぎ、脳神経内科に興味を持ってもらい、ひとりでも脳神経内科医を目指す若い医師が現れ、将来地域の医療を担ってくれればいいなと思っています。最後に引き続き当科をよろしく願います。

整形外科

様々な運動器疾患に、
外科的・保守的治療を展開

●笠原 孝一 診療部長 ●牧野 健 診療部長
●高橋 完靖 部長

木原 伸介*/佐々木 優*/飯盛 信哉/深井 恭寛/名古 竜平/石村 颯貴 (*=医長)

全9名



>『新しい展開は?』What's New!

人員が増え、専門性の高い技術を持った整形外科医が多数集まったことにより、以前と比べて様々な疾患を治療することが可能となっています。特に脊椎疾患については、以前は当院を含め近隣の病院には専門医がおらず適切な治療が行われていなかったため、お困りの患者さんも多かったと思います。現在当院には脊椎専門医が常駐しており、外来でMRIやCTを用いて的確に病態を診断し、効果的な保存的治療を行います。それでも改善し

ない場合には入院、精査の上、手術を行います。手術は頸椎から腰仙椎までどのレベルでも、必要であれば金属スクリューによる固定術も併用して神経の圧迫を取り除きます。また骨粗鬆症による脊椎の圧迫骨折に対して、今まではコルセットと安静により完治までに長時間を要していましたが、最近では数日の入院による最小侵襲手術により、短期間で痛みから解放され、早期の社会復帰が可能となっています。

>『得意領域の深化は? (診療または業務内容とスタッフについて)』What's Strengthen!

当院は24時間365日断らない救急を目標としており、毎日たくさんの骨折患者さんが入院されます。特に多いのは高齢の方の股関節周囲の骨折いわゆる頸部骨折です。体力の少ない高齢者が受傷後に長期間の安静を強いられれば様々な合併症が生じ、足腰も弱って歩けなくなる危険性が高まります。当科では内科や麻酔科と連携し

て患者さんの全身状態を素早く把握し、早期に手術を行うことが可能です。そのため頸部骨折の手術件数は兵庫県内でも上位に位置しており、手術手技、治療成績に関しては全国トップレベルと自負しています。また術後は当院リハビリ科さらには六甲アイランド甲南病院への転院にてリハビリを十分に行い自宅復帰を目指しています。

>『将来構想は?』What's Future Challenges!

今回のグランドオープンにより病床は増え、手術室も拡充するため、さらに多くの患者さんの受け入れ、手術が可能となります。それに向けてたくさんの患者さんに受診していただく必要がありますが、現在は救急による入院の割合が多くを占めます。今後は慢性疾患やスポーツ障害などたくさんの患者さんを近隣の病院やクリニックから紹介していただけるよう密接に連携していく必要があると考えます。コロ

ナ禍で難しいのですが、勉強会や症例検討会などを主催しface to faceで信頼していただけるよう努力していきたいです。しかし、昨年は900件以上の手術をこなし、外来や救急対応などの業務を含め、現状では医療の質を維持する事が難しくなっています。したがって今後は優秀なスタッフを増員してより多くの患者さんに満足していただけるよう整形外科を充実させていきたいと考えています。

形成外科

外観の治療を通じて
患者さんの生活の質を向上

●芝岡 美枝 部長
林 奈央/掛川 莉花

全3名



>『新しい展開は?』What's New!

形成外科は、甲南会では2005年より六甲アイランド甲南病院で診療を開始しました。2019年に甲南医療センターI期オープンにあわせて、診療拠点を六甲アイランドから移してきました。ほぼ全ての診療科が集結したことで、複数の診療科が協力して成り立つ高度な医療が可能

となり、形成外科領域では乳腺外科と連携し一次、二次乳房再建がしやすい環境となりました。また救急搬送件数の増加により外傷の手術件数が多くなっております。2021年は入院手術件数301件、外来手術件数が319件でいずれも2020年と比較し20%以上増加しております。

>『得意領域の深化は? (診療または業務内容とスタッフについて)』What's Strengthen!

形成外科の常勤スタッフは3名で、外科系診療科では珍しく現在3名全員が女性です。形成外科診療守備範囲は広く、臓器別診療科と違い、どうしても受診したらいいのかわからない、というお声をしばしばお聞きします。形成外科は『外見にかかわる外科』全般であり、大きく分類すると ①小児先天奇形 ②皮膚・皮下腫瘍の切除および悪性腫瘍切除後の再建 ③顔面および手足のけが、やけど ④治りにくいキズ ⑤きずあと・ケロイド ⑥美容

⑦その他の分野に診療範囲は及びます。当科では、その他に分類される、『眼瞼下垂症』など目元の手術を得意とし力を入れています。眼瞼下垂症とは、加齢やコンタクトレンズの長年の使用などのさまざまな原因で瞼が上がりにくくなり、しんどさを感じる疾患です。当科では審美面はもちろん、眼科医師と連携し、病態に応じた機能的な回復に導きます。

>『将来構想は?』What's Future Challenges!

先述の得意分野である眼瞼下垂症をはじめとする瞼(まぶた)の外科で質の高い医療を提供していきます。また女性スタッフばかりの強みを生かし、積極的に乳

腺外科と連携して希望される患者さん全てに乳癌の治療と並行して乳房再建の機会を提供できればと思います。

産婦人科

地域の周産期医療を支えると共に
幅広く腹腔鏡手術・
悪性腫瘍手術にも取り組む

●森田 宏紀 副院長

村田 友香*/登村 友里*/井関 菜美子/大和 奈津子
矢野 陽子/熊谷 美咲 (*=医長) 全7名



>『新しい展開は?』What's New!

真っさらな新病院の最上階に産婦人科病棟があります。病棟からの眺望は非常に良く患者さんの癒しになっています。当院での分娩のコンセプトは総合病院ならではの安心感がありながら、クリニック並みにきめ細かなサービスが受けられることです。

総合病院でのお産のメリットは、院内にもしもの時のことを解決してくれる診療科があることです。出産後の赤ちゃんに問題があれば小児科を受診出来ますし、妊娠中に軽度の内科合併症があっても通院が同時に出来て、

>『得意領域の深化は? (診療または業務内容とスタッフについて)』What's Strengthen!

当院は兵庫県より地域周産期協力病院に指定され地域の周産期ネットワークの一翼を担っています。NICUが無い妊娠35週以降の取り扱いですが、近隣クリニック通院中の妊婦さんに何かあった場合は紹介を頂いております。一方当院通院中の妊婦さんに、例えば妊娠35週以前に急にお腹がはるなどの場合は、このネットワークを生かして高次の周産期医療機関と連携し紹介しております。従来より医師のスキルアップに力をいれています。当科は産婦人科のサブスペシャリティである周産期専門

>『将来構想は?』What's Future Challenges!

産婦人科ほど多岐に渡る診療を行なっている診療科はないと思います。出産に始まり、さらに思春期のヘルスケア、妊娠分娩、成熟期の疾患(子宮筋腫、子宮内膜症、卵巣嚢胞)の治療、更年期のヘルスケア、がん治療、老年期の疾患:といった女性の一生の健康管理をできる医療を常に高い水準で目指します。女性の健康を保つ上で良

分娩時の対応も可能です。同時に様々な細かい気配りをしています。産後のお食事は美味しいもので体力を回復して頂くために病院食とは別に作っております。退院日には近隣の人気レストランにご主人と共に祝いランチに行っておりまして。産婦人科に女性医師が多いことも細やかに繋がっていると思います。

婦人科は良性から悪性まで手術療法、抗癌剤化学療法、ホルモン療法など幅広く取り扱い、近隣の中核病院として多数の患者さんの紹介を頂いております。

医、婦人科腫瘍専門医、女性医学専門医やまた腹腔鏡技術認定医の修練施設です。個々の医師が修練することで全体のレベルアップを計っております。



きパートナーでありたいと思っています。そのために得意とする腹腔鏡などの低侵襲手術を伸ばすとともに常に最新の知見や技術をアップデートしています。学会、論文発表を積極的に行い、近隣の市民の皆様、医療関係者に対し情報発信をおこない一層地域に根ざした中核病院となることを構想しています。

小児科

急性期の疾患を中心に
専門外来や高度な検査にも対応

●太田 國隆 副院長 ●中野 加奈子 部長

井濤 莖子*/平瀬 敏志*
谷口 裕章*/中迫 正祥*
河野 一誠/加古 優香
樹田 千晶
(*=医長) 全9名



>『新しい展開は?』What's New!

東灘区・灘区で唯一の小児病棟として、入院が必要な子どもの受け入れをしています。年間では800~900人程度の入院があります。また、神戸市の小児二次救急輪番病院として、神戸市全体から救急車や急病の子どもが集まって来ます。小児病棟は25床で、感染症の多い小児の疾患に対応できるよう個室が多く準備されています。

小児内科疾患だけではなく、耳鼻科や整形外科、形成外科などの手術が必要な子どもたちも入って来ます。病棟には病棟保育士を配置し、子どもの年齢に応じた療養支援を行なっています。新生児室は保育器が4台あり、低出生体重児や、生直後の新生児のトラブルに対応できるようになっています。

>『得意領域の深化は? (診療または業務内容とスタッフについて)』What's Strengthen!

小児科医は感染症などの急性疾患全般に十分な経験を持つだけでなく、それぞれが専門分野を持ち、専門的な診療を行っています。現在、アレルギー学会専門医が3名(うち2名が指導医)、小児神経専門医が1名在籍しており、アレルギー外来、神経外来や、そのほかにも腎外来、発達外来、頭痛外来、内分泌外来などを開設しています。



>『将来構想は?』What's Future Challenges!

まず、入院施設を持つ小児科として、救急車や急病の子どもの受け入れは継続し、さらに増やしていくことが必

須です。そのうえで、医師の専門性を生かして、病院でなければならないことを進めていきます。

今まで当院は日本アレルギー学会アレルギー専門医教育研修施設でしたが、新専門医制度への移行に伴い、2022年度以降は日本専門医機構の認定する専門研修基幹施設として認定されました。アレルギー専門医を目指す医師の研修も始めていくことになります。



腫瘍・血液内科

化学療法や免疫療法を用い
安心で最適な治療を提案

- 谷 聡 参事
 - 下山 学 診療部長
 - 茶屋原 菜穂子 部長
- 渡辺 まりか/伊藤 恵理子/本田 桃子

全6名



>『新しい展開は?』What's New!

甲南医療センターとなり腫瘍・血液内科を標榜し診療を行っています。甲南病院と六甲アイランド甲南病院の機能統合、再編成でほぼすべての領域の診療科が甲南医療センターに揃いました。様々な持病のある患者さんも安心して治療を受けていただけます。抗がん剤および支持療法の進歩に伴い、通院で可能な抗がん剤治療が増えています。外来化学療法室では診察室を2つ、ベッドおよびリクライニングチェアを合わせて14床整備し、十分な感染症対策を行い治療を行っています。強度の強い化学



療法などは入院で行っています。白血病の寛解導入療法、骨髄腫やリンパ腫に対する自家末梢血造血細胞移植などは病棟に4床あるクリーンルームで施行しています。

>『得意領域の深化は? (診療または業務内容とスタッフについて)』What's Strengthen!

近年がんの遺伝子変異などの特徴に合わせて抗がん薬が選択されるようになりました。2019年がん遺伝子パネル検査が固形がん保険適応になりました。血液がんでも現在開発が進められています。遺伝子の変化があれば、患者さんそれぞれのがんに適した薬剤があるかを検討し、主治医が治療方針を提案します。効果がある治療

法が見つかることもある反面、治療につながる情報が得られないこともあります(現時点で治療に結びついた患者さんの割合は約10%)。遺伝子変化に対応した薬剤開発が進められており、効果的な治療薬が増加することが期待されます。当科では神戸大学医学附属病院と連携し、治療法の選択に遺伝子パネル検査を活用しています。

>『将来構想は?』What's Future Challenges!

分子標的薬や免疫チェックポイント阻害薬の出現によりがんのできた臓器に関わらない臓器横断的治療が広がっています。様々な臓器のがんに効果が期待できる一方、従来の抗がん剤とは異なる副作用があります。安心して化学療法を受けていただくためにチーム医療が重要になってきています。各診療科医師の連携のみならず、看護

師、薬剤師、管理栄養士、理学療法士、ソーシャルワーカーなど職種による包括的なサポートを充実させていきます。化学療法を受けながら通常の生活を維持できるように日常生活における注意点や利用可能なサービス情報などを提供していきます。入院中はがんリハビリテーションを行い日常生活行動の維持を目指します。

緩和ケア内科

習熟した専門医、スタッフが
苦痛を和らげ
より良い豊かな生活を
サポート

- 松沼 亮 医長
- 田中 佑加子 医長
- 田崎 潤一/伊藤 まどか
- 原納 遥

全5名



>『新しい展開は?』What's New!

緩和ケア病棟は病床数22床と変わりはありません。しかし新病院となり、さらにactiveとなっていく病院に合わせ、緩和ケア内科、緩和ケア病棟一丸となり、さらにAcute Palliative Care Unit(急性期緩和ケア病棟)として、入院が必要な苦痛を抱えたがん患者さんの受け入

れを強化していきたいと思っています。また高度な専門的緩和ケアの提供を行うべく、日本トップクラスの治療・ケアが行えるようにスタッフのスキルアップも行っていきたいと思っております。

>『得意領域の深化は? (診療または業務内容とスタッフについて)』What's Strengthen!

甲南医療センター緩和ケア病棟の強みは「緊急対応」と「地域連携」です。緩和ケア病棟の「神戸市東部の住民が安心して療養できる環境を質の高いレベルで提供していく」というミッションを共有し、休日・夜間問わず、在宅療養されている患者さんに、入院が必要となった場合には受け入れを行っております。(事前に入棟面談受診後の患者さんに限ります)またなるべく患者さんがご自宅で苦痛なく過ごせるよう、訪問診療を行う医療機関、訪問看護ステーション、ケアマネジャーらと綿密な連携をとって

おります。この綿密な連携により速やかな入院受け入れが可能となっております。



>『将来構想は?』What's Future Challenges!

緩和ケア内科の将来構想として、「地域連携のさらなる強化」と「高度な緩和ケアを提供できる医療者の育成」をあげます。

◎「地域連携のさらなる強化」
現在複数の訪問診療を行う医療機関、訪問看護ステーションなどと連携をとっておりますが、それをさらにすすめてまいります。それにより在宅療養を行う患者さんが、安心

して過ごしていただく選択肢が増えると考えております。

◎「高度な緩和ケアを提供できる医療者の育成」
医師については神戸大学緩和支援診療科と連携し、急性期緩和ケア病棟における高度な緩和ケアを提供できる医師を育成します。また看護師についても緩和ケアに関する知識のupdate、スキルアップの機会が設けられるような体制の構築を目指してまいります。

神戸市東部における 乳がん診療施設の 中核的存在へ

乳がん治療のエキスパートが
着任

乳腺外科

高尾 信太郎
副院長



>『新しい展開は?』What's New!

これまで当科は、宮下 勝医師(参事、部長)が長年にわたって地域の乳腺疾患診療に携わってこられ、昨年から、岡本 明子医師(医長)が加わって、より一層充実した診療が可能になりました。本年4月からは、兵庫県がん

センターより高尾 信太郎医師(副院長、部長)が赴任することで3人体制となり、これまで以上にレベルアップした診療が可能になります。

>『得意領域の深化は? (診療または業務内容とスタッフについて)』What's Strengthen!

具体的には、外来診療は手術日(火曜日)以外の毎日行い、基本的に診療は完全予約制として、患者サポートセンターを通じて、新規紹介、乳癌二次検診、セカンドオピニオンを全て受けるようにします。また、乳癌地域連携パスを導入して、紹介医、地域の開業医の先生方と乳癌患者さんの連携診療を積極的に行っていきます。

治療に関しては、多くの職種で構成する専門のスタッフが各々の役割を果たしながら、プレストチームとして心をひとつにして、患者さん、ご家族が安心して治療を受けられるようにサポートしていきます。また、コロナ禍での呼吸器管理、合併症対策も、呼吸器内科をはじめとした各科のサポートを受け適切に対処できています。

>『将来構想は?』What's Future Challenges!

地域に根ざした、乳がんを中心に据えた乳腺疾患診療の基幹センターとして、乳腺センターを近い将来開設し以下のミッションを果たしていきます。

- ① 乳腺外科が中心になって、形成外科、腫瘍内科、放射線科、病理診断部などの他科との綿密な連携のもと、最善の乳腺診療を行う。
- ② 患者さんが安心して治療が受けられるよう医療スタッフ全員で患者さんに寄り添う。
- ③ 健診センターと連動し、神戸市医師会、東灘区医師会

と協力して、乳がんの早期発見、早期治療、予防、啓蒙活動を行う。

④ 地域の開業医院、クリニックの先生と連携して過不足のない乳腺診療を行う。

⑤ 次世代を担う若手乳腺外科医を育成する。

患者さんのために地域医療の中で我々ができること、すべきことを常に念頭に置き、チーム医療実践に向けて全力で励む所存です。ご期待ください。

乳腺外科

新しい乳腺外科診療の幕明け 乳腺センター化に!

乳腺専門医が多岐にわたる
専門性の高い治療を実施

●宮下 勝 参事 ●高尾 信太郎 副院長
岡本 明子* (*=医長) 全3名



>『新しい展開は?』What's New!

オンコプラスチックサージャリーは手術による女性のボディイメージの変化を美しくする外科手術であり、乳癌領域においても早期乳がんに対して形成外科と連携して同時乳房再建手術を取り組んでいます。切除するがんに対しては必要十分な切除を行ったうえで、形成外科医がきれいに再建する手術により、精神的にも患者さんが安心できる結果を得ていくことがQOL(生活の質)の向上につながると信じております。

>『得意領域の深化は? (診療または業務内容とスタッフについて)』What's Strengthen!

現在の乳腺専門医2名体制、すなわちベテラン乳腺外科医と女性乳腺専門医の体制から、4月からは乳腺専門医3人体制が計画されています。スタッフが増加するだけでなく、がん専門病院からハイレベルのスタッフの入職により乳腺外科のがん診療をさらに高度で専門的な医療として提供し、手術数増加を目指しています。同時乳房再建

手術が増加すれば、手術枠の増加も必須であり、4月からは外来診療枠も増えて紹介患者数の増加も見込まれるため、さらに手術治療の増加に対応する効率的な診療を進めていきます。そのためには生理検査室や放射線検査などのコメディカルスタッフ、乳癌認定看護師や看護スタッフとのさらなる協力、分業化も必要と考えます。

>『将来構想は?』What's Future Challenges!

地域医療を担う乳腺センターを立ち上げて、あらゆる職種が一堂に会するチーム医療としてセンター運営を行っていく構想です。そのためには乳腺外科、腫瘍内科、放射線診断、緩和医療などの医師だけでなく女性放射線技師、女性生理検査技師、看護師等の参加するカンファレンスや事例検討会など、話し合いをして考え方を共有していく機会が大切です。

また次世代を担う乳腺専門医教育を若い医師に行い、優秀な将来を担う人材を育てていくべく、専攻医を積極的に採用して大学と連携して教育システムを構築してまいります。そのためには地域社会に貢献する医療機関として、他のために尽くす愛他精神をもつ医療者を育成していくことも肝要と考えております。

麻酔科

知識・技術を日々研鑽し、
「麻酔の質」の向上に尽力

●速水 弘 参事 ●末原 知美 部長

●眞田 かなえ 部長

平山 加枝*/松田 昌子*/西原 侑紀*/田邊 結理/中山 里穂
金 甫妍 (*=医長) 全9名



>『新しい展開は?』What's New!

甲南医療センターの開設に伴い、中央手術部は2019年10月より3室から7室になりました。そして、2022年2月中旬頃に10室まで増え、いよいよ稼働が開始します。10室全てに全身麻酔に必要な麻酔器・生体モニター・中央配管が設置されており、また、中央手術部各所には各部屋の手術状況を監視するシステムも備えております。これにより全室の状況をスタッフがくまなく把握し、万が一の急変時等に対応することが容易になりました。

10室中7室は麻酔科管理手術(全身麻酔など麻酔科医が関与する手術)、残りの3室は局所麻酔手術(麻酔科



医が原則関与しない手術)の為に使用されます。手術・麻酔内容に応じて部屋が分けられたことにより、手術室稼働が一層向上することを期待しています。

>『得意領域の深化は? (診療または業務内容とスタッフについて)』What's Strengthen!

診療科の特性上、得意領域の強化は難しいですがむしろ、患者さんと執刀医の要望に柔軟に対応しバランスの取れた上質な医療を提供することが重要だと考えています。当然それを実現するには、洗練された技術と深く確かな知識、そして“患者第一”の心が必要不可欠であり、スタッフ一同それを肝に銘じ日々の臨床に従事しております。当科では2022年1月現在で8名が勤務し、全

員常勤医師かつ麻酔科標榜医・認定医資格を有しています。更に内7名は上位資格の専門医あるいは指導医資格を取得しております。これは他病院と比較してもかなり恵まれた状況であり、より質の高い医療の提供の為此の状況を生かさない手はありません。具体的には日々の症例に関するレベルの高いスタッフ間討論を継続し、実行に移すことが挙げられます。

>『将来構想は?』What's Future Challenges!

麻酔科管理手術症例数は2020年で2400例、2021年で2580例でした。今後は大幅な症例数増加は勿論、内容の充実も目指さなくてはなりません。内容の充実とは、重篤な合併症のある症例や超高齢者・高侵襲・長時間・緊急手術、また高度な麻酔技術が要求される手術などの周術期をより安全確実に管理する、ということです。新しい中央手術部は、ハード・ソフト面ともそれらに応え

ることが可能となりました。一方、教育面の充実も疎かには出来ません。当科は神戸大学麻酔科の重要な研修病院と期待されています。麻酔科若手医師の成長の場となるには前述の如く症例数・内容の充実が欠かせません。今回のグランドオープンで、中央手術部の発展と若手医師の成長を同時に、そして間近に見ることが出来ることを非常に楽しみにしております。

救急科

“断らない救急”を実践し、東神戸の
中核病院として救急医療を支える

●高橋 徹也 統轄部長 ●橋本 英之 救急救命士

全2名



>『新しい展開は?』What's New!

現在、救急科は初療室4(うち、感染対策用2)・一般診療室1・発熱外来診療室1で運用していますが、グランド

オープン後に拡張し、初療室4(うち感染対策兼用1)・感染対策用室2・一般診療室2となり、感染用を含め、診療室が2室増設されます。設備的にさらに多くの患者さんの対応ができるようになりました。

>『得意領域の深化は? (診療または業務内容とスタッフについて)』What's Strengthen!

甲南医療センターを受診される救急患者さんのほとんどは救急科で初療を行います。様々な疾患に対応し、初期診療を迅速に行い、診療結果を踏まえ、適切な診療科の医師と連携し診療に当たります。救急科には専任医師は1名ですが、平日日中は内科系各科から、その日の救急専任担当者を2名派遣してもらい、スタッフ医師3名と研修医3

名で診療にあたります。各科には救急オンコール担当者が各日決まっており、受診された患者さんの診療結果に基づき、該当する科の救急担当者に連絡して診療を依頼しています。全科が協力して救急患者さんに対応していることで、多様な疾患・多数の患者さんの受け入れが可能となっています。

>『将来構想は?』What's Future Challenges!

甲南医療センターは救急車搬送数だけでも年間5000件を超え、2次救急で扱う疾患はほとんどを扱います。しかし症例数が多い分、複数患者を同時に診療する場合もあり、優先度を判断しつつ、診療する必要もあります。こうした『限られた時間内での診断力』も養えるよう実症例・講義を通して指導・教育しています。現在救急

診療に関する、より専門的な知識を学習できるよう、神戸大学病院救命救急センターから非常勤ですが、週に3日救急専門医を招き、現場での直接的な指導や救急診療に関するレクチャーを開催しています。将来的には、救急科専任の医師を増員し、より多くの救急患者さんをより安心して対応できる施設になるよう尽力していきます。



病理診断科

組織や細胞から得られた情報で
早期診断・治療に貢献

●宮下 勝 参事
●高橋 卓也 部長

全2名



>『新しい展開は?』What's New!

確実に増えるであろう全ての診療領域における病理検体検査について、詳細な病理組織学的報告書を作成いたします。手術検体の肉眼所見を写真で示すと共に、顕微鏡検査による組織写真像にも可能な限り所見を付記いたします。またスクリーニングを含む細胞診検体も増えると思われませんが、ベテランの細胞診検査士(病理技師)が丁寧な鏡検でこなしてまいります。



>『得意領域の深化は? (診療または業務内容とスタッフについて)』What's Strengthen!



元来、当院病理技師の標本作成能力は高く、知識・経験も豊富です。増えるであろう病理検体についても、確実に標本作成を行えるはずであります。また、手術中の迅速診断検査も外科系の医師と連携し、年間200検体は目指したいです。また研修医を含め若手内科医にとって重要となる病理解剖も年間20件は目指したいです。

>『将来構想は?』What's Future Challenges!

将来、本院が地域がん診療連携拠点病院を担えるよう目指してまいります。病理技師と最高のチームワークを築き上げ、また学会発表や勉強会参加を積極的に行い、共に研鑽を積んでまいります。



放射線科

画像診断専門医による
迅速かつ正確な
検査結果を提供し、
最善の治療へ貢献

●鈴木 加代 PETセンター長
●片山 直人 主任部長 ●中林 美日 部長
増田 裕美子*/田中 宇多留*/伊藤 貴代/山中 智晴
須田 香菜子 (*=医長) 全8名



>『新しい展開は?』What's New!

放射線科では診断専門医5人、専攻医3人の計8人が在籍しています。病院機能の統合や遠隔画像診断技術の発達に伴って、六甲アイランド甲南病院・甲南加古川病院の人員を甲南医療センターへ集約し、甲南会3病院の画像診断業務を全て担っています。これによって読影業務の効率化のみならず、知識の共有や他科の医師・パラメディカルとのコミュニケーションを活性化が得られ、これ

まで以上の医療水準を提供できるよう努めています。また2019年秋より、タブレット端末(SYNAPSE ZERO、富士フィルムメディカル®)を用いた遠隔画像診断も導入しています。甲南医療センターの掲げる「24時間365日断らない救急」を後押しできるよう、夜間・休日を問わず読影可能な体制としています。

>『得意領域の深化は? (診療または業務内容とスタッフについて)』What's Strengthen!

急性期病院である甲南医療センターにはcommon diseaseから希少疾患、時には見逃しが致命的となる疾患を有する患者さんが混在しています。専門的な知識を有するスタッフが連携し、専門領域だけでなく全身解剖や疾患についての知識を共有することで、患者さんの状態や

病態をより深く追求し、治療方針に役立てるよう患者さんへ還元していきます。その他、研修医への教育や、臨床的に稀な疾患/教育的な疾患に関する学術発表、神戸大学と共同での臨床研究なども推進しています。

>『将来構想は?』What's Future Challenges!

近年、人工知能(Artificial Intelligence:AI)の技術がますます進歩しています。一時は「医療へのAIの導入により放射線科医が不要になる」といった話も囁かれました。しかしCT/MRIを含めた最新の医療技術に触れる機会の多い放射線科医にとってAI技術との親和性は高く、現在では「放射線科こそが医療へのAI導入の先進的・中心的役割を果たす」という流れへ変化しつつあります。

AI技術の導入は大学病院レベルのみならず、甲南医療センターにおいても徐々に進んできています(CTコログラフィーでのポリープ解析、肝細胞癌に対するTACE時の腫瘍血管解析など)。AIと共存し、これらの技術を駆使して、将来的にもさらに精度の高い医療を提供できるよう尽力いたします。

PETセンター

東神戸地区では唯一の施設、阪神間のがん診療に貢献

●鈴木 加代 PETセンター長



>『新しい展開は?』What's New!

PETセンターは2019年秋の甲南医療センター改称時にあわせて開設されました。PET/CT検査、シンチ・SPECT検査という、放射性医薬品(以下、お薬と記載します)を用いた画像検査を行います。

◎PET/CT検査:

当院ではFDGというお薬を用いたPET/CT検査を行っています。当院では、がん患者さんの病変の広がりや治療後の再発の有無を調べるために行われることが多いです。ほかに高安病などの大型血管炎や、心サルコイドーシスの活動性の評価のために行われます。また、六甲アイランド甲南病院健診センターから、がん検診の目的で依頼されることもあります。

>『得意領域の深化は? (診療または業務内容とスタッフについて)』What's Strengthen!

当センターには核医学専門医が常駐しており、核医学専門医教育病院です。レポート作成は核医学専門医が行います。PETセンターを担当する看護師や診療放射線技

師は限定されており、熟練したスタッフが安全に検査を施行できるよう心がけています。

◎シンチ・SPECT/CT検査:

検査目的によってお薬を使い分け、検査時間や方法がすこしずつ異なります。

当センターの特色としては、認知症センターがあるため、アルツハイマー型認知症やレビー小体型認知症、パーキンソン症候群などの評価のため、脳血流SPECTや脳受容体シンチ、MIBGシンチが多くなされています。その他、心筋シンチや骨シンチ、甲状腺シンチ、副腎シンチ、リンパ管シンチ、ソマトスタチン受容体シンチなど、多数の検査を行っています。

>『将来構想は?』What's Future Challenges!

PET/CT検査ができる病院は灘区・東灘区では当センターのみです。SPECT/CT検査も可能な病院は限られています。地域の病院・診療所さまからのご依頼を多数受け入れて参りたいと思います。放射性医薬品の開発は進んでおり、今後も様々な診断薬や放射性治療薬(RI内服治療薬)が流通していくことが予想されます。これらが保険適用されたときに、できるだけ対応できるよう、日々研鑽を積んで準備をしていく所存です。

◎FDG-PET/CTとは

FDGという薬剤を用いたPET/CT検査です。現在の保険適用疾患は4種類で、このうち、悪性腫瘍でのFDG-PET/CT検査が最も多く行われています。

FDGという薬剤はブドウ糖(グルコース)に18Fという放射性物質を結合させたもので、ブドウ糖と同じように体内の細胞を行き来する性質があります。このため細

胞分裂が活発な悪性腫瘍や炎症細胞に集まりやすく、体内のブドウ糖代謝の状態をCTと重ね合わせた画像で見ることができます。病変の広がりを視覚的に把握することができるため、悪性腫瘍の病期診断、再発の有無の診断、また特定の腫瘍では化学療法後の治療効果判定などで用いられ、がんの診療には欠かせない検査となりつつあります。



IVRセンター

IVR-CTの導入により治療手技を
拡充、幅広い疾患にも対応

●片山 直人 センター長



>『新しい展開は?』What's New!

IVRセンターは2017年春に新しく誕生した診療部です。IVRは日本語で「画像下治療」と訳され、X線やCTなどの画像ガイド下に経皮的に治療を行う低侵襲な治療法です。2019年秋の甲南医療センター改称時に最新のIVR-CT(術中にCTも撮影可能な血管撮影装置)を導入し、循環器系の血管撮影装置と併せて2室備えています。腹部、循環器、脳神経系の血管撮影、カテーテルを用

いた治療が行えます。循環器・脳神経系を除いたIVRの件数は2016年度以前では100件未満でしたが、IVRセンター開設後は増加傾向であり、甲南医療センター改称後も2019年度300件台、2020年度600件台と右肩上がりとなっています。2021年度も700件台の見込みであり、兵庫内のみならず近畿圏においても多数の治療実績を有しています。

>『得意領域の深化は? (診療または業務内容とスタッフについて)』What's Strengthen!

IVRセンターでは日本IVR学会専門医を含めてIVR学会所属の医師4名で治療を行っており、前兵庫医大教授(元アジア太平洋IVR学会会長・日本IVR学会会長)である廣田省三先生も非常勤で外来・診療を行っています。また日本IVR学会・CVIT学会認定のインターベンションエキスパートナースも複数名所属しています。肝癌などへのカテーテル治療(TACE)、透析シャント狭窄・閉塞に対する拡張術(PTA)、中心静脈カテーテル・ポート留置術など昔から知られている治療はもちろんのこと、病的圧迫骨折に対する骨セメント(PVP)、肺癌などによる上大

静脈/下大静脈症候群に対する静脈ステント留置術といった比較的新しい治療も積極的に行っています。



>『将来構想は?』What's Future Challenges!

近年では良性疾患へのIVRの適応も広がりつつあり、子宮筋腫への塞栓術(UAE)や、四十肩・五十肩などの慢性疼痛に対する運動器カテーテル治療(現時点では保険適応外)も確立しつつあります。これらの治療法も導入していけるよう、知識・技術の向上に努めていきます。

また医療者や患者さんのIVRへの理解向上・普及に伴って、低侵襲な治療であるIVRへの需要は年々高まりつつあります。当院のみならず、東灘区を含めた医療圏においてIVRの適応となる患者さんの診療・治療に当たれるよう、近隣の病院との連携をさらに強化していきたいと存じます。

認知症疾患医療センター／精神科

東灘の認知症疾患診療の主要拠点として診療体制を充実

●加賀野井 秀和 センター長

認知症看護認定看護師1名/公認心理師2名/PSW2名



>『新しい展開は?』 What's New!

超高齢社会に突入してから10年以上経過した現在の日本において、認知症はすでに高血圧や糖尿病などと並ぶ一般的な疾患となりました。誰もが罹患する可能性があり患者数は今後更に増加すると言われていますが、ケアや介護などサポートを行うご家族など認知症に関わる方々の人口増加も予想され、予防・診断・治療のみならず



認知症という疾患そのものの理解が重要な課題と考えています。当センターでは認知症をテーマとした映画のオンライン上映会といった認知症サロンなどのイベント開催を通じ、今後も疾患理解を推し進めるべく様々な企画を打ち出していく予定としています。

>『得意領域の深化は? (診療または業務内容とスタッフについて)』 What's Strengthen!

当センターには認知症を専門とした医師・認知症看護認定看護師・精神保健福祉士・公認心理師が在籍し、包括的に認知症に取り組めるような体制が整っていますが、当センターのみならず病院全体でも認知症の患者さんやそのご家族に適切な対応ができるよう、病院スタッフの教育や育成が必要不可欠だと考えています。認知症の患者さんは状況理解が難しくなることから不安定な精神状態に陥りやすく、一緒に傍で悩んでいるご家族も

含めて精神的にサポートできるような環境を作ることが重要です。院内でも疾患教育を深めるための勉強会やキャンペーンを適宜行い、職員一丸となってそうした場を提供できるよう、今後も努力を続けていきます。



>『将来構想は?』 What's Future Challenges!

治療可能な認知症がある一方、アルツハイマー型認知症などの変性性認知症は残念ながら現時点では根治の難しい疾患です。症状の進行をできるだけ遅くすることが治療目標となりますが、そのためには早期介入が肝要であり、診断から治療までスムーズに移行できるような地域のネットワーク構築が重要です。また認知症として診断された患者さんとそのご家族が、その後も地域社会の中で自分らしく健やかに生活を維持できるような支援体制の拡充も求められます。当センターは神戸市東部の認知症専門医療機関としてその拠点となり、地域包括支援センターやかかりつけ医、認知症初期集中支援チームなど地域の関係機関との連携強化を今後も推進していきます。

当院には精神科としての入院病床はなく、認知症を除く一般精神科として他院からの紹介受診は受け付けていませんが、当院の他の診療科に通院または入院中の患者さんを対象とした精神科業務を行っています。現在治療中の疾患だけでなく精神疾患の併存が疑われる場合は当科が順次介入を行い、週1回の外来枠でのフォローアップや精神科リエゾンと呼ばれるチームでの病棟回診など、精神科的な治療やケアも併せて実施できる体制が整っています。他科からの依頼件数は現在も数多く、院内対応の更なる充実のみならず、必要に応じて治療やケアが院内だけで完結しないよう地域関係機関との連携強化を図っていきます。

血液浄化センター

症状、ライフスタイルに合わせた
透析療法を提供

●藤森 明 副院長 ●中田 裕子 師長

透析看護認定看護師1名/常勤看護師17名/准看護師1名



>『新しい展開は?』 What's New!

血液浄化センターでは外来の維持透析患者さんの血液透析治療を中心とした業務をおこなってきました。甲南医療センターになってからは、合併症治療の目的で入院される血液透析患者さんの割合が増加しています。これらの症例は治療中に血圧低下や不整脈といったトラブルが発生することが多く、ハイレベルなケアが必要



となります。また、血漿交換や吸着治療といったアフエーレーション症例も増加して、特殊な病態に対する知識や対応能力が必要となってきます。グランドオープンにあたり、スタッフのレベルアップを図りどのような症例にも対応できるようにしていきたいと考えています。

>『得意領域の深化は? (診療または業務内容とスタッフについて)』 What's Strengthen!

末期腎不全に至った患者さんに対し、丁寧に腎代替療法の説明をおこなうようにしていきます。血液透析、腹膜透析、腎移植という3つの選択肢があるわけですが、患者さん本人と御家族にどう治療かを十分理解していただいたうえで、医師・看護師とともに治療法を選択すると

いった専門外来をより充実したものにしていきます。ICT機器(iPAD)を導入し訪問看護ステーションと密に連携することにより、高齢の患者さんでも安心して腹膜透析管理ができるようなネットワークを構築します。

>『将来構想は?』 What's Future Challenges!

血液浄化センターの透析ベッドは常時ほぼ満床で稼働しており、救急や合併症入院の透析患者さんの治療はベッドをやりくりしておこなっています。また、新規に血液透析

を導入した患者さんは六甲アイランド甲南病院と連携しています。上記の療法選択外来や、サポート体制を充実させて腹膜透析患者さんを増やしていきたいと考えています。



創傷外科センター

治りにくい様々なキズに対し、
より見た目に注力した
最善の治療を提供

●芝岡 美枝 形成外科部長



>『新しい展開は?』What's New!

グランドオープンに伴って形成外科の外来ブースは移転し、キズの診察、処置、ケアに使用できる診療スペースが広がります。創傷外科センターとして、これまでより

一層、多職種連携で糖尿病性潰瘍や動脈性潰瘍、静脈うっ滞性潰瘍など、さまざまな治りにくいキズの治療、管理を集約的にこなせてまいります。

>『得意領域の深化は? (診療または業務内容とスタッフについて)』What's Strengthen!

<①豊富な圧迫療法コンダクター> 静脈性潰瘍の治療には弾性包帯や弾性ストッキングの適切な選定と患者指導が不可欠なのですが、当センターには、学会の講習・認定を受けた圧迫療法コンダクターが医師3名、看護師3名おり静脈瘤手術および潰瘍の植皮手術、圧迫療法による保存的治療まで一貫して治療可能となっております。

<②高気圧酸素治療> 当センターの特徴として、高気圧酸素治療施設があります。高気圧酸素治療は特殊な装置、治療室が必要なため治療可能な施設が限られています。標準的な治療法で改善が見られない糖尿病性潰瘍や慢性骨髄炎、動脈性潰瘍などのキズに対し、適応を見極めて高気圧酸素治療は最後の切り札として効果を発揮しています。また壊死性筋膜炎などの感染症にも高気圧酸素治療はよい適応です。

<③経験豊富な義肢装具士> 足にキズがある患者さんがキズに負荷をかけずにリハビリをするために、キズ治癒後に繰り返さないために、手術や基礎疾患による足の変形で市販の靴があわない患者さんのために、義肢装具士は創傷治療現場で不可欠な存在です。当センターにはとくに創傷に強い義肢装具士が医師と診察をともにし靴、装具を作成しています。



>『将来構想は?』What's Future Challenges!

- 患者さん、地域の先生、当院スタッフなどそれぞれ対象に勉強会や症例検討会を開催できるように(コロナ禍のため方法は要検討ですが)したい。
- 将来の創傷外科専門医や創傷専門看護師を育成し、より大きなマンパワーを得る。



リハビリテーション室



4階 外来



4階 外来



総合受付



看護部

Nursing Department

- ◆看護部 49
- ◆看護人事採用センター 50
- ◆看護職員研究センター 51

看護部

あたたかい温もりのある心で
「つながる看護・介護」を実践

●堀口 美由紀 統轄部長 ●山原 敦子 部長
●川崎 敬子 副部長 ●小西 由佳利 副部長



>『新しい展開は?』 What's New!

新たな病棟がオープンし看護単位も16に増え、一般病棟9病棟はより専門性の高い臓器別の病棟になります。手術室も7室から10室になりより迅速に緊急手術に対応

できるようになります。各診療科の先生とこれまで以上に密に連携し、専門性の高い看護を提供していきます。

>『得意領域の深化は? (診療または業務内容とスタッフについて)』 What's Strengthen!

「ここに来てよかった」と思っていただけ看護を提供し、「みんなを笑顔にする」「みんなが笑顔になる」そんな

看護部を目指します。

>『将来構想は?』 What's Future Challenges!

“change and challenge”

2019年10月の統合後は未知の感染症covid-19に翻弄され、目の前のことに只々対応するだけの毎日でした。

今後2025年を前に医療界だけでなく社会情勢も目まぐるしく変化することが予測されます。未来を見つめ、常に変化に対応し、変革できる看護部であり続けます。



看護人事採用センター

これからの看護を支える
人材を見つける

●青木 節子 センター長



>『新しい展開は?』 What's New!

看護師は、病院組織の中で最大の職能集団です。甲南医療センターも2023年には500人を超える看護師が働くことになります。看護師個々の、態度、技術、心くばりが直接的に患者さんに見える病院の質となります。

病院の新築、診療の充実、御影という地の利から現在では多くの看護師が甲南医療センターで働きたいと応募してくれています。

>『得意領域の深化は? (診療または業務内容とスタッフについて)』 What's Strengthen!

採用センターでもSNS、看護部HP、病院紹介動画、WEB病院見学会を通して広く、正確な情報を当院に関

心をもつ人に提供しています。

>『将来構想は?』 What's Future Challenges!

今後は、採用活動だけではなく、採用センターの職員が看護の現場に向き「1on1ミーティング」を通して働いてい

る看護師の思いを聞き、働き甲斐を感じながら看護師が成長できる場となるように皆で構築していきたいと思ひます。



看護職員研修センター

これからの医療を支え、
看護の質の向上を目指すための教育を

●松本 多津子 センター長



>『新しい展開は?』What's New!

2020年4月より看護職員研修センターは1人で運営することになり、加えて新型コロナウイルス感染拡大防止対策を重視した研修を展開する必要がありました。

2020年度はこれまでの法人研修計画内容に沿い、人

数制限と同じ研修を数回開催し、またZoomを導入したリモート研修を開始しました。2021年度は法人研修計画をラダー別枠組みに変更し、看護倫理事例検討やコミュニケーション研修等を追加し充実しています。

>『得意領域の深化は? (診療または業務内容とスタッフについて)』What's Strengthen!

甲南会看護部には各施設に教育委員会があります。研修センターは各施設看護部をはじめ、教育委員長に

協力を得ながら、全施設の看護職員に必要な研修を計画していきます。

>『将来構想は?』What's Future Challenges!

甲南会看護部は認定看護管理者8名、専門看護師1名、認定看護師18名(内2名は特定行為研修修了)が在籍し

ています。今後は法人研修の講師や計画にも携わっていただきたいと思います。



診療支援部

Medical Support Department

◆薬剤部	53
◆中央検査部	54
◆中央放射線部	55
◆中央臨床工学部	56
◆リハビリテーション部	57
◆栄養管理部	58
◆患者サポートセンター	59
◆医療情報部	60
◆病院秘書課	61
◆教育研修センター	62

薬剤部

正確で安心安全な医薬品情報を提供

●奥野 護 部長 ●君羅 加奈恵 副部長
他 常勤薬剤師19名



>『新しい展開は?』 What's New!

薬剤部は新築された中館の2階、手術室・中央検査部と同じフロアに移動しました。診療科や病棟・病床数が増えたことに対応するため、調剤機器の更新や、注射薬の自動払い出し装置の導入を行いました。また、病棟での薬剤師業務を充実させるため、薬剤師も少しずつ増員して安全な薬物治療に貢献できるよう努めています。

>『得意領域の深化は? (診療または業務内容とスタッフについて)』 What's Strengthen!

日々進化する医療に対応できるよう、臨床経験や知識の豊かなClinical Pharmacistの育成を目指しています。医療安全を重視した調剤業務はもちろんのこと、病棟業務を拡充し、多職種と連携しながら、より安全でより有効な薬物治療の実施を目指しています。また、高度化・複雑化する医療に対応するため、個々の薬剤師の能力、専門性を高めるために、各分野の専門・認定薬剤師

>『将来構想は?』 What's Future Challenges!

令和3年6月、厚生労働省より「薬剤師の養成及び資質向上等に関する検討会」のとりまとめが発表されました。その中には、対人(=对患者)業務の充実と対物(=調剤)業務の効率化が記されており、十分な病棟業務のほか、薬剤師による外来支援、手術室、ICU、救急への業務支援、臨床研究への取り組みが必要とされていますので、今後はそのような分野にも注力していきたいと考えています。また、薬剤師の資質向上の一環として、国家免許取得直後の薬剤師を対象とした卒後教育(例えば、医師の研修医制度のような)も議論・検討されており、大学卒業後の薬剤師教育が大きく変わろうとしています。東灘医療

更に、がん化学療法のミキシング(点滴・注射の抗がん剤を無菌的に調製すること)を安全に行うための安全キャビネットも更新し、新しい調製室内を陰圧室にしました。これにより、薬剤師の安全も守られます。

また、地域の保険薬局との連携強化の為に、合同の研修会やトレーニングレポートを活用し、保険薬局からの情報を診療の現場にフィードバックしています。

の育成にも取り組んでいます。(2021年12月現在:がん専門薬剤師、がん薬物療法認定薬剤師、糖尿病療養指導士、病院薬学認定薬剤師、認定実務実習指導薬剤師、研修認定薬剤師、上級健康食品管理士が在籍)

未来の薬剤師育成にも貢献するため、各大学からの薬学実習生を受け入れて臨床現場での実務実習を実施しています。



人材育成コンソーシアムも鑑み、将来の薬剤師育成・教育にも力を入れていこうと考えています。



中央検査部

精度の高い知識と技術で
検査結果を迅速に提供

●清藤 美香 主任技師長
●下田 貴子 技師長
他 常勤臨床検査技師26名
事務2名



>『新しい展開は?』 What's New!

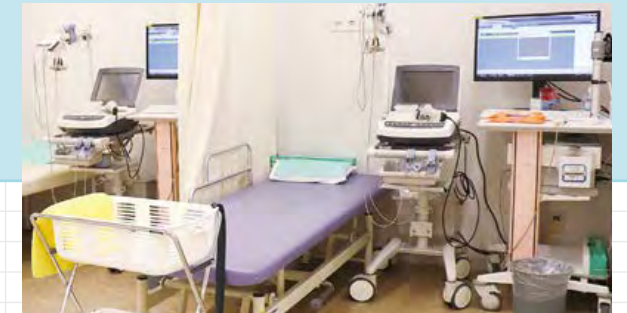
こんにちは中央検査部です。院内で臨床検査を担当しています。臨床検査は診断や治療に必須であり、正確・精密・迅速・安全が重視され医療の根幹とも成るものです。実施する内容は検体検査、生理検査に大別され、高度な知識と技術を持つ臨床検査技師が従事しています。「検体検査室」では、グランドオープンに伴い検体前処理

>『得意領域の深化は? (診療または業務内容とスタッフについて)』 What's Strengthen!

一昨年から世界中を悩ませている新型コロナウイルス。PCR検査という臨床検査が社会的にも注目を浴び、臨床検査従事者の貢献が評価される一方、検査数の少なさへの批判などもありました。しかし、現在は感染リスクの高い手術や発熱患者様を中心にスクリーニング検査が行われるようになり、当院でもPCR 検査・抗原定量検査を合わ

>『将来構想は?』 What's Future Challenges!

臨床検査において近年、検体検査は自動化が著しく進みました。生理機能検査においても単に技術面では将来的に機械化が可能かもしれません。このような時代への突入を前に、臨床検査技師は分野ごとに専門家がいる今までの検査室のスタイルをさらにパワーアップした業務の棲み分けが必要となります。自ら学び、変化させていく創造的な能力を身に付ける。その能力こそが時代の変化に対応していくために臨床検査技師に不可欠であり、また世代間においてその連続的な引き継ぎを行っていく事が、総合力のある臨床検査技師の育成、甲南医療



装置が導入されました。これは患者さんにとって採血時に必要な採血量が少なく済むメリットがあります。また「生理検査室」は超音波検査装置が増設されたことで業務効率が向上します。これまで当日予約外検査の待ち時間が課題でしたが、待ち時間の解消とともにこれまで以上に患者さんに寄り添った安心安全な検査に取り組めます。

せて1日に約30~40件実施しています。このように新型コロナウイルス検査の需要が高まっている状況において、未だ国内では検査精度の管理調査は実施されておらず、各検査室での精度確保の取組みが測定結果の信頼性を左右する状況です。検査部の責任において、検査精度確保のもとで、正しい検査結果の提供に努めて参ります。

センターとその患者さんにとって価値のある検査室にながると考えます。



中央放射線部

高機能で高精細な診断装置の導入により
診断精度・効率が向上

●甲山 精二 診療技術部長 ●月生 正信 技師長
他 常勤診療放射線技師21名



>『新しい展開は?』What's New!

甲南病院は、2019年10月より急性期病院として神戸市東灘を中心とした地域医療を担うため甲南医療センターとして生まれ変わり、今春グランドオープンを迎える運びとなりました。中央放射線部では画像診断装置を一新し、新たに核医学検査部門としてPETセンターの開設ならびに頭部、心臓、腹部、四肢等の各種血管撮影および

外科的手術を要しない血管内治療等を行うIVRセンターを大きく拡充しました。急性期疾患に不可欠な画像診断は、体の外からは見ることができない病変の存在(存在診断)、広がり(病期診断)や良悪性の判断(質的診断)を目的に、全てのモダリティにおいて、最新システムが導入され、画質および患者サービスの向上を図りました。

>『得意領域の深化は? (診療または業務内容とスタッフについて)』What's Strengthen!

患者さんに安心、安全かつ精度の高い医療サービスを提供するため、先生方をはじめとするチーム医療の実践を図り、救急医療では脳卒中や心血管疾患や、胸部部の急性疾患について24時間迅速に対応できる体制を整えています。そのため、放射線部内の各部署には各々モダリティを専門とするスタッフを配属し、スタッフ間での教

育体制を整え、認定や専門技師の取得を目指し質の担保に努めております。また、通常時間外勤務帯においても、IVRとMRIのそれぞれに特化した知識を有する当直者2名体制で、あらゆる疾患や緊急時に必要とする診断価値の高い画像情報の提供が可能となるよう体制を整えております。

>『将来構想は?』What's Future Challenges!

中央放射線部の将来構想として、未来永劫に高度先端医療を担うため、最新の画像診断装置を導入し、診断価値の高い画像構築や手術支援画像を作成し、的確な病態情報を医師に提供したいと考えております。昨今、装置の大型化や検査の煩雑化により、患者さんから目が離れがちで、患者さんを置き去りにすることが危惧されますが、中央放射線部では、ホスピタリティを原点に、いかなる時も患者さんに寄り添うことを忘れず、患者さんを中心とした医師、他の職種間でのチーム医療に徹することを重点に日常業務に励みたいと思います。



中央臨床工学部

経験豊富なスタッフが透析治療
横断的な診療を支援

●灰原 博子 技士長
他 常勤臨床工学技士18名



>『新しい展開は?』What's New!

中央臨床工学部(ME)は甲南医療センター開院と共に、IVR、不整脈、睡眠時無呼吸外来、内視鏡、高圧酸素療法、手術室の支援業務を新たに開始しました。急性期診療への転換に伴う医療体制の変化に追従した結果です。各業務には経験豊富なスタッフをリーダとし、医療安

全を第一にチーム医療で診療支援を展開してきました。また、医師と連携し、要望のある治療については資料を収集、技術面の確認を行うなど新たな取り組みについての支援も行っています。

>『得意領域の深化は? (診療または業務内容とスタッフについて)』What's Strengthen!

急性期病院でありながら慢性維持透析35床を備える施設はあまりありません。緊急症例が発生しても院内で対応できる診療網が備わっています。血液浄化センターでは透析のみならず、難病治療の選択肢である特殊血液浄化(アフアレシス)高気圧酸素療法では、装置の導入により突発性難聴、末梢循環障害など薬剤のみでは改善

の難しい症例に新たな治療が行えるようになりました。関西圏でも台数が少ないため他院から紹介の患者さんも増えており、治療枠を増やして受入れ体制を整えています。循環領域ではCovid-19で話題となったPCPSを当院は設置しています。万が一の急変時には、訓練を積んだスタッフがチーム全力で治療にあたります。

>『将来構想は?』What's Future Challenges!

臨床工学は医療機器という枠組みを通し横断的な診療支援ができる部門です。そのため、緊急性の高い分野



には積極的に参画していきます。将来的には手術室・ICUへのME配置を拡充し、重症患者に手厚いケアを行っていきます。また、RSTチーム発足に伴い、呼吸器関連分野への注力を進めています。そのためにも、夜間・休日でも迅速に対応できる24時間体制を準備中です。普及が進んでいる遠隔システムは、ペースメーカー・睡眠時無呼吸治療で逸早く導入しました。日常生活での生体情報が集積でき、小さなイベントが発見しやすくなりました。データ解析をMEが実施していますが、今後はさらに対応機種が増えることが見込まれます。

リハビリテーション部

早期の社会復帰に向けて、
多様なリハビリテーションで幅広い疾患に対応

- 内田 豊 統轄技士長(OT) ●戒居 多希子 副技士長(ST)
- 山本 健太 副技士長(PT)
- 他 常勤OT6名/PT21名/ST5名/助手1名



>『新しい展開は?』What's New!

甲南医療センターはグランドオープンを迎え、新しいスタートを切りました。これは職員である私たちにとっても非常にうれしいことで、リハビリストアッフ一同“新たな気持ちで頑張ろう”という意気込みをもって業務に臨んでいます。新しくなったと言えるリハビリ室も新しくできた建物に引っ越し、広々とした開放的なスペースとなりま

した。これまでは受付や外来からリハビリ室まで迷路のように入り組んだ経路で、リハビリを受けられる患者さんには大変なご不便おかけしていました。新しいリハビリ室は正面玄関から程近い格段に利便性の良い場所になり、明るい雰囲気の中、存分にリハビリをしていただけると

>『得意領域の深化は? (診療または業務内容とスタッフについて)』What's Strengthen!

病氣・けがなどで入院生活を余儀なくされた患者さんには、一日でも早く家庭生活を取り戻していただきたいと思っています。これは患者さん、ご家族の方も同じ思いではないでしょうか。当院では、昨年よりICU(集中治療室)入室後48時間以内に多職種チームでリハビリ介入ができる体制が整いました。超急性期からの厳密な医学的管理のもとに安全に配慮した積極的なリハビリは、その後の経過に好影響をもたらすことは言うまでもありません。

この他にも脳血管疾患、運動器疾患、循環器疾患、呼吸器疾患、がん疾患と、それぞれ分野別に専門性の高い療法士を配置し、安全に高質のリハビリを提供できるように取り組んでいます。



>『将来構想は?』What's Future Challenges!

甲南会全体のリハビリを見ると、甲南医療センターでは「急性期のリハビリ」、六甲アイランド甲南病院では「回復期のリハビリ」、甲南老人保健施設では自宅復帰前の「生活リハビリ」、自宅に帰ってからは「訪問リハビリあるいは通所リハビリ」というように、全ての段階でリハビリを提供できる体制があります。しかし各施設の連携に関しては十

分とは言えません。これからは、リハビリが始まる甲南医療センターからスムーズに自宅での生活まで繋げられるように、施設間の連携を強化していきたいと思ひます。そして地域住民の皆さまに“甲南会のリハビリにまかせておけば大丈夫”と思っていただけるように、精いっぱい努力していく所存です。どうぞよろしくお願いいたします。

栄養管理部

知識豊富な専門スタッフが入院中も
退院後も食事療法を
継続的にサポート

- 尾園 千佳 副士長
- 他 常勤管理栄養士5名



>『新しい展開は?』What's New!

「食事は『安心安全』『治療』『楽しみ』を提供するもの」を当部の方針としています。甲南医療センターでは診療科や病床数の増加に合わせた調理と、より多くの食事提供が求められました。しかし、食事の数が増えるほど食中毒予防などの安全管理、また治療食の調理が煩雑になっ

てしまいます。その中で方針を達成する為に、厨房にクックチルシステムを導入しました。HACCPに基づいた徹底した衛生管理が可能となり、冷却チルド保管では少量の塩分でも味の浸透効果が得られ、厳しい栄養基準でも「安心安全」な「治療」を提供しています。行事食、いつも食べられる人気メニュー、緩和や産後メニュー等も展開し、「楽しみ」の提供も強化しています。

>『得意領域の深化は? (診療または業務内容とスタッフについて)』What's Strengthen!

各病棟へ管理栄養士を配属し、栄養状態の把握とともに各診療科の分野に沿った栄養管理、栄養指導、適切な食事の提供など、患者に寄り添った栄養サポートを行うようにしています。近年、複数の基礎疾患を多くかかえる患者が増えている一方、フレイルやサルコペニアなど生活の質や寿命に関係する全身を鑑みた栄養状態の管理もまた重要な課題です。そのため、担当患者の栄養管理を行うと同時に、栄養サポートチーム(NST)や褥瘡防止

対策チーム、認知症ケアなど様々なチーム医療にも積極的に参画し、管理栄養士の立場から支援することで栄養状態の維持または、回復した状態で退院できるようにすることを強化しています。また、地域連携の強化として他施設へ転院される場合は、必要と思われる方に食事摂取状況や摂取量など栄養に関する情報を作成し、退院時にお渡しするようにしています。

>『将来構想は?』What's Future Challenges!

「人生100年時代」と言われるほど平均寿命が延びたことで「健康寿命」が重視され始めています。しかし、偏った食生活による病状の悪化や栄養状態の不良に陥ることで健康に年を重ねられていない患者さんを多くみかけます。人にとって「食べること」は、生命を維持するだけではなく、心の栄養にも影響します。入院時だけでなく退院後も、また、地域の皆さんが身体も心も健康で100歳を迎えられるよう栄養サポートしたいと考えています。そのた



めにも、管理栄養士のスキルアップ、未来の管理栄養士育成を行っていき、栄養管理部の理念である「信頼され、期待され、選ばれ、誇りがもてる」栄養管理部を目指します。

患者サポートセンター

地域の医療機関との連携を強化し
退院後の生活をサポート

●若狭 千草 部長 ●住田 博美 師長
●小林 伸隆 副課長
他 常勤看護師5名/MSW9名/PSW1名/事務8名



>『新しい展開は?』What's New!

甲南医療センターは、2020年に地域医療支援病院の承認を受け、紹介型の病院となりました。地域完結型医療の中核を担い、不断の救急医療が全うできるように、地域の医療機関や医師会、行政、保健所、介護・福祉機関等の皆様との情報共有を密にして、地域ケアネットワークの一端を担い医療連携をさらに強化し、『病院の窓口』としての役割を担っていきます。また、グランドオープン

>『得意領域の深化は? (診療または業務内容とスタッフについて)』What's Strengthen!

患者サポートセンターは、『お待たせしない、迅速な対応!』をモットーに、事務・看護師・社会福祉士(MSW)の3職種が協働しながら業務を行っています。

①地域連携部門として、事務が紹介状窓口、開業医からの診察・検査予約、紹介率・逆紹介率・返書管理、登録医制度・開放病床の運用、セカンドオピニオン外来、地域連携パスの推進など、病病・病診連携を中心に担当しています。

>『将来構想は?』What's Future Challenges!

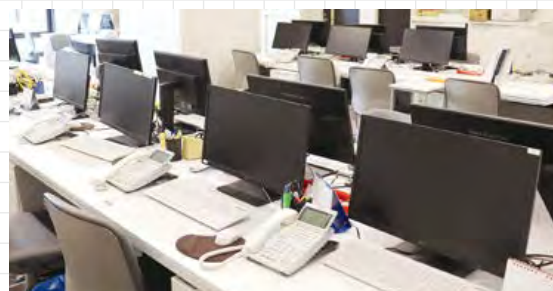
地域連携は、当院の診療の基盤であり、みなさまからのお声を頂戴しながら、そのつながりをさらに強くしていくよう取り組んでまいります。今後は、一層『顔の見える関係作り』に注力し、症例検討会、オープンカンファレンス、地域の医療従事者を対象としたセミナー、市民公開講座など、Webを活用しながら甲南医療センターから発信し、地域の医療水準の向上に努めます。そして、当院が地域ケアネットワークの一端を担い、みなさまにとって身



後は、受付カウンターを増設し、紹介患者さんや入院予約・相談窓口等の待ち時間を短縮できるように準備しております。外来受診、入院、退院(転院)、在宅ケアにいたるまで、多種多様な医療ニーズに対応し、安心して当院をご利用いただけるようなサービス提供を目指しておりますので、お気軽にご相談下さい。

②看護師は、入退院支援を中心として、入院前の面談で患者さんの情報収集を行い、早期介入・退院後の生活を見据えて最適な療養環境を繋ぐために調整を行います。

③MSWは、専門職として退院支援・医療福祉相談などを中心に、経済的・心理的・社会的な様々な問題に対応し、行政や医療機関等と連携をはかりご相談を承ります。



医療情報部

医療のデジタル化を推進し
効率化をサポート

●杉原 敬彦 部長 他 常勤職員3名



>『新しい展開は?』What's New!

病棟を中心に整備を行ってきた患者さん向けの無線WiFiが中棟完成により、すべての病棟のデイルーム、外来待合室で使用可能となります。また、この無線を使った外来患者さん向けの「診察待ち状況のご案内(Line)」

>『得意領域の深化は? (診療または業務内容とスタッフについて)』What's Strengthen!

医療情報部は「システムを安定稼働させる」ことをモットーとしています。そのため、大きなシステム改造は行うことはありませんが、職員の皆さんのシステムの使い勝手の向上、業務負担の軽減を目指し、常に記録の簡素化、



も外来グランドオープンに合わせてサービス開始する予定です。これ以外にも患者さん、地域の開業医の先生方へのサービス向上に向けたシステムの導入を関係部署と調整しながら、検討してまいります。

>『将来構想は?』What's Future Challenges!

医療業界は最もデジタル化が遅れている業界のひとつと言われています。デジタル化を遅らせている最大の原因が「医療を縛る法規が多いこと」であり、参入障壁があるために「システム導入費用が高止まりし」、結果的にシステム導入の抑制に繋がります。しかし、近年新型コロナウイルスの感染拡大防止、働き方改革、医療人材の確保、等を背景に法規制が緩和されています。「AIを用いた診断・治療支援を行うプログラムを利用して診療を行う場合も医師法第17条の医業とみなす」、という通知



(医政医発1219第1号)も規制緩和の一例です。内閣府主導のSIPにある「AIホスピタルによる高度診断・治療システム」の事例(AI対話型自動問診システム、患者の過去の医療データを用いた診療支援)は規制緩和に沿ったものであり、現在実証実験が行われています。

また、規制緩和により他業種からの参入もあり、システム導入費用はリーズナブルになりつつあります。

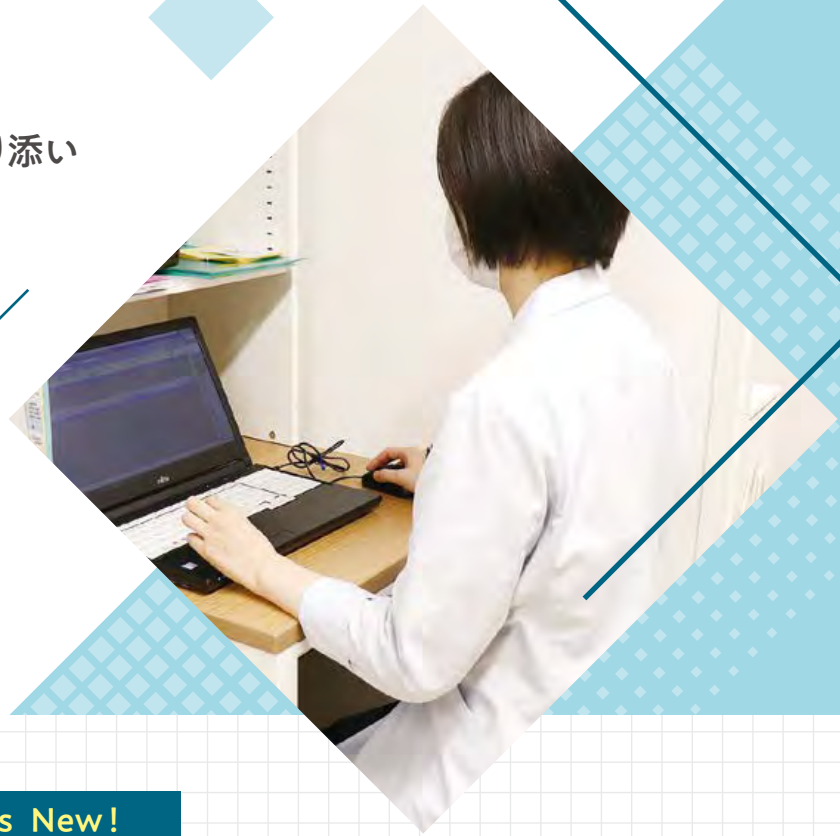
医療情報部では、感染防止、働き方改革、人材確保、システム導入による間接費用の削減を目指し、効果、コスト、セキュリティのバランスを保ちながらより良い医療情報システムの導入・運用を行っていきたいと考えます。



病院秘書課

専門知識を深め、患者さんに寄り添いながら診療をサポート

●井上 千恵子 課長 他 常勤職員26名



>『新しい展開は?』 What's New!

対応する診療科数増加に伴い、医師数も大幅に増えました。引き続き医師の事務作業補助を行ってまいります。

>『得意領域の深化は? (診療または業務内容とスタッフについて)』 What's Strengthen!

医療の知識を増やし、書類代行作成等事務処理能力をさらに向上するよう努めております。患者さんへはもちろん、院内スタッフに対しても常に気持ちのよい対応ができるよう心掛けていきます。



>『将来構想は?』 What's Future Challenges!

各個人の知識を深め、スキルアップを目指し、病院に貢献できる人材を育成します。



教育研修センター

次の100年を担う
医療人の教育と育成を強化

●清水 宏紀 センター長 他 常勤職員2名



>『新しい展開は?』 What's New!

教育研修センターの役割は初期研修医、専攻医、学生実習の受け入れ及び研修医のサポート、病院見学生への対応です。現在、初期研修医は23名、内科専攻医は17名在籍しています。救急車搬送数は年間5000件以上あり救急医療を通じて医療を学べる病院です。当院の研修を希望する学生は年々増加しています。毎年夏に行っている研修医採用試験の応募者は定員8名のところ2020年

35名、2021年51名でした。当院が教育に重点を置いていることが浸透した結果であると考えています。学生実習に関しては世界標準の医学教育を目指すため医学部生の関連病院実習が大幅に増えました。座学ではなく実際の診療現場を体験する、主治医チームの一員として研修することが求められています。

>『得意領域の深化は? (診療または業務内容とスタッフについて)』 What's Strengthen!

当センターの業務は研修医のプログラムの作成とその管理、進路の相談、健康管理、広報活動など多岐にわたります。医師1名、専任事務員2名が配置され事務手続きだけでなく、研修医の悩み、進路などの相談に乗っています。特に初期研修医は各科ローテーションし、他施設での研修もあり調整、交渉を行っています。神戸大学医学部5年次関連病院実習(1か月)、6年次個別計画実習(2週間)、4・5年次BSL (bed side learning) の受け入れ窓口として

の役割を担っています。また月に一度、全国の学生に対しインターネットで病院紹介し多くの大学に当院の研修内容をアピールしています。毎日のように研修を希望する医学部生の病院見学があり各科指導医との日程調節、健康チェックを行っています。



>『将来構想は?』 What's Future Challenges!

全国の医学部生、初期研修医に対し当院の初期研修、専門医プログラムを発信し優秀な研修医、専攻医を集めたいと考えています。そのため病院説明会の充実、ホームページの充実を行います。感染に注意しながら病院見学者を受け入れていきます。また初期研修医、専攻医の学会発表、論文発表を増やし業績をアピールしていく予定

です。またレクチャー、症例検討、BSL (Bed Side Learning)、ICLS (Immediate Cardiac Life Support) の回数を増やし研修医の教育体制を充実していきたいと考えています。「教育は病院の使命である」ことを全職員に徹底させていきたいと考えています。





理念と行動指針



寄附者 芳名板



特別室



4階外来

地球が輝き続ける、
まちづくりを。

私たちは、豊かで安心・安全な「まちづくり」を通して、
サステナブル社会を実現し、地球の未来につないでいきます。

想いをかたちに 未来へつなぐ
TAKENAKA

株式会社 竹中工務店 <https://www.takenaka.co.jp/>

本 社：〒541-0053 大阪市中央区本町 4-1-13 Tel: 06-6252-1201
東京本店：〒136-0075 東京都江東区新砂 1-1-1 Tel: 03-6810-5000



Caffè
ITALIAN TOMATO
SOLARE

※「ソラーレ」とは、イタリア語で「太陽」を意味します。



カフェ イタリアン・トマト ソラーレ
(甲南医療センター店)

〒658-0064 兵庫県神戸市東灘区鴨子ヶ原1-5-16
甲南医療センター3F TEL: 078-335-8710
＜営業時間＞ 平日 7:30～19:00 / 土日祝日 9:00～17:00

カフェ イタリアン・トマト ソラーレは、カフェ イタリアン・トマトのドリンクやフード、スタッフが心を込めてお迎えする「おもてなしの空間」をそのままに、病院に特化したメニューや設備、サービスを加えたカフェです。カフェインレスのコーヒー、紅茶や糖質offのスイーツやパスタ麺をご用意しているほか、車椅子に配慮したレジカウンターやテーブル、ステッキホルダー付きチェア、点滴充電用コンセントなど設備面も充実しています。

銀泉は、保険・ビル・駐車場の
「ベストパートナー」です。

 **銀泉株式会社**  ジーエスパーク

神戸支店
〒650-0021 神戸市中央区三宮町1丁目5番1号
銀泉三宮ビル 4階
TEL: 078-335-2591
URL / <https://www.ginsen-gr.co.jp>

カラー印刷

チラシやポスターを制作したいけど...

名刺・ショップカード・はがき
チラシ・メニュー・パンフレット
ポスター・のぼり・垂れ幕・看板
Tシャツ・各種ノベルティ制作
画像動画制作・ホームページ制作
車両ラッピング・その他
あらゆるものがワンストップで
ご注文いただけます。

デザインについて
専門的な知識が無いから
不安!

どこに頼めばいいか
分からない!

あちらこちらに
発注するのが面倒!



ご安心ください!!
私たちがトータルでサポートいたします。

パソコンが苦手でも大丈夫! ファックスや郵送でのやりとりにも柔軟に対応いたします。

A4 チラシ / 片面カラー

デザイン料 + 印刷料

すべて込み **1000** 枚

16500 (税込) 円~

※ 100枚からご注文いただけます。

A2 ポスター / 片面カラー

デザイン料 + 印刷料

すべて込み **10** 枚

17500 (税込) 円~

※ 1枚からご注文いただけます。



まずはお気軽にご相談下さい。

cmorec
Create a Chance.

☎ **078-821-1516**

<https://cmorec.jp>

シーモアシー

検索

貸切バスで 快適な旅

安全

快適

親切

グループでの
パーティーや旅行に

会社での
見学・研修に

クラブでの
合宿・試合に

豊富なバリエーションで、あらゆるシーンに対応いたします。



マイクロバス

乗務員 1 名
座席数 27
(内補助席 6)
トランク なし



中型送迎バス

乗務員 1 名
座席数 44
(内補助席 7)
トランク なし



大型観光バス

乗務員 1 名
座席数 53 ~ 56
(内補助席 8 ~ 10)
トランク あり

その他、ワゴン車タイプや大型送迎バスなどもございます。(いずれも運転手付き)



KOBE MINATO KANKO

みなと観光バス株式会社

〒658-0031 神戸市東灘区向洋町東1丁目4

TEL:078-845-3710 FAX:078-845-3713

<http://www.kobe-minato.co.jp> みなと観光バス

検索

ご相談・お問合せ・お見積り

お客様窓口

078-845-3710

国土交通省制定「新運賃料金制度」に基づいた適正料金にて運行いたしております。

甲南医療センター

〒658-0064 兵庫県神戸市東灘区鴨子ヶ原1-5-16
TEL:078-851-2161(病院代表)
<http://kohnan.or.jp/kohnan/>
TEL:078-854-4370
(地域医療連携/患者サポートセンター)



六甲アイランド甲南病院

〒658-0032 兵庫県神戸市東灘区向洋町中2-11
TEL:078-858-1111
<http://kohnan.or.jp/rokko/>



甲南加古川病院

〒675-0009 兵庫県加古川市神野町西条1545-1
TEL:079-438-0621
<http://kohnan.or.jp/kakogawa/>



甲南介護老人保健施設

〒658-0032 兵庫県神戸市東灘区向洋町中3-2-5
TEL:078-858-1180
http://kohnan.or.jp/kohnan_hoken/



甲南訪問看護ステーション

〒658-0032 兵庫県神戸市東灘区向洋町中2-11
TEL:078-854-1156
http://kohnan.or.jp/kango_station/



甲南居宅介護支援事業所

〒658-0032 兵庫県神戸市東灘区向洋町中3-2-5
TEL:078-858-1257
http://kohnan.or.jp/kohnan_hoken/



▲中庭へつながる総合受付